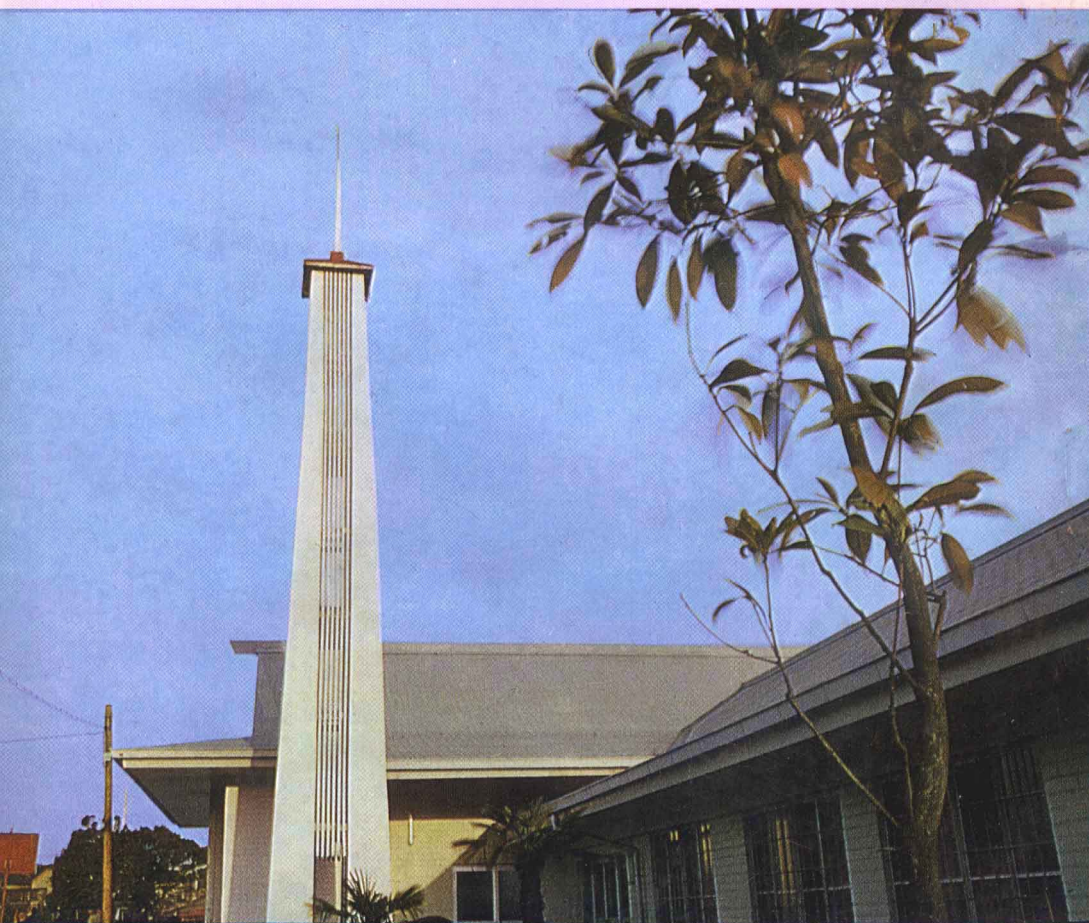


聖徒の道

4

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第9巻第4号 1965年4月1日発行

SEITO-NO-MICHI



聖 徒 の 道

第 9 卷
第 4 号

1965年 4月号

目 次

大管長メッセージ	152
伝道部長メッセージ	154
モルモンの先祖探求の証詞	156
特 集	162
伝道本部だより	166
支部だより	167
系図のページ	169
伝道部扶助協会会長メッセージ	173
扶助協会レッスン	175
えいごのページ	195



東京北支部



大管長 デビド・O・マッケイ

私たちは主を礼拝するため
に教会堂へ入る。

私たちは「主のみたま」を
授けていただきたいと思っ
ている。そして「主のみた
ま」を授けていただくとき、
私たちの霊の力が強くなる
のである。

若人に持つ私の信仰と潔い文学



大管長

デビッド・O・マッケイ

私は今日の若い人たちに大きな確信を持っております。私は時々ある若い人たちが教会の標準より下に落ちたと云うことを聞きますが、それは事実でしょうが、ほんの少数であります。教会の若い人たちは真理を愛し標準を保ちたいと望んでおります。私は彼らを信頼しております。彼らのために働らくことは何と大きな喜びでありましょうか。この生涯に於て教会で教師や役員や又指導者となつて、若い人たちを導き又共に働らく程大きな幸福はありません。

私たちが若い人たちに何か頼みますと、殆どの人が進んで嬉

しように、それを引受けます。そして私は彼らが単にM I A会員としてだけでなく、日曜学校の資格に於て、又一市民としてあるいは教育的な活動に於て主に奉仕せんとする、その積極的な意志をほんとに嬉しく思うのであります。彼らは創立当初から今迄の教会の人たちと同じように素直によく応え、又熱心に真理を求めて居ります。私は主よ彼らを祝福し給へと申します。主は若い青年男女を、又彼らに文学を提供し、あるいは彼らをM I A及びその他の場所に任命する責任を持つておられる男女の皆さんを祝福しておられます。

皆さん御存じですか、良書又は立派な雑誌は丁度、交つて善導される良友のようなものであります。そのような出版物は若い人たちにこの世の又教会の指導教師及び最上の男女に逢わせる機会を与えているのであります。若い時代はそのような良友を選ぶ時であります。若い時代に覚えた多くのことは生涯を通じて忘れないものであります。良書を持ち、その良書を友とすることは、只現在だけでなくその人の生涯を通じて、その経験に又公衆の前にその人の人がらを豊かにするものであります。私はハンツヴィルからオグデンに藁を運んでいた頃の事を覚

えて居りますが、それは二時間半もかかりましたので私は何時でも小さな書物を手に持って二時間半の内に多くの引用文を暗記しました。今日でも私は八十年前に覚えたこれらの引用文のあるものを使っており、この良友の一部は未だに私の傍にありますが。若い人たちにとってシェクスピア、スコット、テニソン及びすべてのアメリカの最上の作家たちに勝る良友はないでしょう。

けれども今日末日聖徒の家庭は、殆ど人間のあらゆる活動の分野に於て挑戦されております。悪の勢力は単に若い人たちだけでなくその両親たちに対しても信仰を破壊し、教会活動を妨げようとしております。

友又は同僚としての書物は賢明に選ばねばなりません。人はその同僚によって判断されるように、その人の教養の高さは彼が読んだ書物によって示されます。朱に交われば赤くなる。俗っぽい文学は人を下品にします。

破滅への道の一つで、最も効果的なものは、誘惑する罪深い極めて不快な絵を伴った有害不適当な読物であります。今日、末日聖徒の家庭に決して入れるべきでないような雑誌がニュース売場に溢れております。

私はイムブルーブメント・エラが一九六四―六五年度MIAの読書課程となったことを喜びを以て見ております。すべての家庭がそれをその家庭の正規の読物として定期的に読むようにして下さい。

読書は、現代の生活にとって誠に重要な部分を占めております。そしてその効果は誠に大きく、私たちが正しい読書の習慣

を奨励、育成することは人類にとって又教会にとって大きな助けとなるに相違ありません。



伝道部長 ダウエン・N・アンダーセン



。永年の苦闘を続けて来た後、人類は未だに世界の最大な指導者は、ガリラヤの人の教えに最も近い人であることを、はっきり認識していないようであります。(マッケイ大管長)

先月指摘しました、黄金律の法則が貴方の指導性に取り入れられたように期待して居ります。指導性の法則は直ちに結果をもたらすものであります。故アダム・エス・ベニヨン十二使徒は曾って私たちの指導性を改善する方法として五つの提案を致しました。これらの提案は貴方がどのような人であろうとも、今日の貴方より明日はもっと強くなろうと熱望する人にさせるでしょう。

一、貴方は事情に通曉すべきである。(くわしく知ること)

二、貴方は人々をよく理解すべきである。

三、貴方は熱意を発揚普及すべきである。

四、貴方は将来の見通しを持つべきである。

五、貴方は援助者を持つべきである。

一、貴方は事情に通曉すべきである。

指導者はその指導するグループの誰よりもよく知りよく学んでいなければなりません。イエスが、権威ある者のように、語ったことは常に印象的であります。彼は彼の御父から靈感されたのであります。彼は彼が導いた如何なる人よりも多く真理を知っていました。若しも貴方がレッスンを教えるなら貴方はそれをよく知らねばなりません。貴方はその場に臨んでレッスンを準備することは出来ません。よく通曉するには段階をふまねばなりません。

二、貴方は人々をよく理解すべきである。

すべての指導者は従う者を持つ筈でその従う者は人々であります。人々はそれぞれ異って生れて来ます。彼らの環境も又彼らと異った人に育て上げます。指導者は彼らのあるがままの状態を理解して彼らに歩調を合せねばなりません。人々はチャレンジであります。(指導者に呼びかけている)指導者は彼らの気持、感情、熱望、抱負、偏見及び能力などを理解し、彼らと和らいて建設的な反応を示すように靈感すべきであります。指導者は自分の務めを果す時に、常に他人の気持を考慮せねばなりません。

三、貴方は熱意を発揚普及すべきである。

或時は貴方は困難に疲れ果ててしまいますけれども貴方が若し失望落胆してしまえば、その困難は決して貴方を指導者に、つくり上げません。貴方は熱意を持たねばなりません。貴方が失望すれば貴方に従う人も失望します。若し貴方が熱意ある人になれば貴方に従う人も熱意ある人となります。貴方のチャレンジは熱意を発揚することです。貴方は貴方に従う者たちを奮起させ、その熱望と目的を達成させるように導くべきであります。

四、貴方は将来の見通しを持つべきであります。

指導者は見通しのきく人であります。気ながに働く人です。彼は先ず考えます。予め計画しますから常に次の段階を知っています。彼は一年中の仕事を見つめます。このことは彼に将来の計画を詳細に整備する時間を与えます。特別の日、特別の場合興味をひく活動など。祈りを以て準備することが出来ます。前以てよく考えることによつて新しい考えが出て来ます。よく考えれば考える程いろいろない考えが浮かんで来ます。せつかに卵をあたたためる牝鶏はいません。彼女はそれが孵化する迄よくあたためねばなりません。私たちのうちの或者は、そんな短時間にとても孵化しないだろうと考える程冷いのです。若しも貴方が桓の後に居たら桓の前方の野原を見通すことは出来ないのです。貴方は見える処に立たねばなりません。貴方は将来の見通しがきく立場に貴方自身を置かねばなりません。

五、貴方は援助者を持つべきである。

真の指導者は常に強い性格の持ち主であります。けれども独奏者は殆んどいません。彼らは援助を求め彼が導く人々の力を資本とします。すべての人が神の子ですから貢献する能力を持っています。全々考えることも出来ず何の存在価値もなく生れて来る人はいない筈です。ですから賢明な指導者は彼のグループの力を資本化するのであります。

宗教的な指導者として私たちは特別の祝福を受けて居ります。或宣教師は次のように言いました。最初人々に伝道(個人接触)する時恐れましたが、間もなく自分は一人でない。誰かがいつも自分と共に居ると云うことを知りました。そしてそれは只自分の同僚宣教師だけではありません。私たちは聖靈の伴侶を持つことが出来るのです。ディンスモアは曾って言いました。若しも神から何の援けも来ないなら、祈りたいという衝動は、ずっと以前に死んでしまつていたでしょう。貴方が貴方の能力の限りを尽くして全霊を以て最善を尽くして働いた時必ず神の援けが得られるのであります。人事を尽して天命を待つてあります。聖典の中で最も美しい約束の一つは、教義と聖約百十二章の十節であります。汝須らく謙遜なれ、さらば主なる汝の神は手を取りて汝を導き汝の祈りに応えん。

貴方は一人で働らいているのではありません。貴方は援助者を持つべきであり、貴方自らがそれを頼むべきであります。

これら五つの提案を指導性に適用する時、貴方の指導力は増強します。そして貴方の前途に横たわっているチャレンジに立向うことが出来、福音の完全な計画は貴方のものとなります。



佐渡相川町瑞仙寺墓地で瑞仙寺和尚さん、お父さんとともに国島姉妹

モルモンの先祖探求の証詞 (国島姉妹)

これは真に素晴らしい証詞です。私は一気に読んでしま
って只々感激、称讃の言葉を知りません。主が日本に神殿を
早く建てる為に、特に姉妹を選ばれエライイジャがいつも姉
妹の傍に在って御先祖探求の尊いお仕事を授けられたので
しょう。多数の戒名によって作成されたシートを含め六十
二枚の家族の記録は既にソルト・レーク系図協会でクレヤ
されてハワイの神殿へ送られんとして居ります。今や姉妹
の手によって数百の御先祖が神のもとに救われんとしてお
り姉妹の神殿に來られる日を待ち望んでおられるのです。

私は一末日聖徒として又一日本人として国島姉妹の御先祖
探求に心から敬服感謝し、日本の会員の皆様が一人も洩れ
ることなくこの素晴らしい証詞を読んで各自の先祖探求に
精進されるように念願致す次第であります。この証詞を投
稿して下さったことを姉妹に感謝し、本伝道部系図探求の
上に豊かな主の祝福があるように祈る次第です。

伝道部系図委員会会長

渡 部 正 雄

バプテスマを受けて間もなくこの教会には死者の救いがあることを知らされました。その当時(約三年余り前)は支部に系図委員会が中断されていた時代でしたので私は宣教師や当時岡町支部の支部長でいらっした阪本兄弟よりいかに死者の為のバプテスマが大切かについてお話を伺いました。当時岡町支部で宣教師として伝道されていた南城姉妹(現在ソルトレーク系図本部で奉仕されています)

はこう話して下さいました。

神殿で死者のバプテスマの儀式をしている方の話ではバプテスマが行なわれる時、その名を呼ばれた霊界の死者の霊は本当に喜んで霊界から降りてくるのが目に見えるようだと云われたそうです。

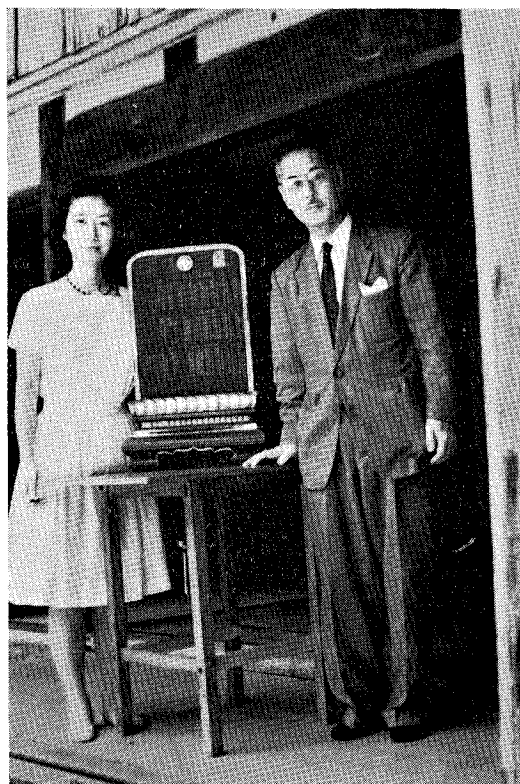
この話を聞いたとき非常に感動し、又いつも話を想い出すごとに神殿の中でその光景に接する思いがして、自分の先祖も救われるように働かなければならないと思い続けました。

一九六二年六月二日御影公会堂で大会が開かれるに先立ち当時の阪本支部長さんは大会のテーマでありました教義と聖約百二十八章二十四節を説明して、系図に關しての特別集會を開いてどのようにして探求すべきかを教えて下さいました。私は阪本兄弟が御自分の先祖を探求するのに非常に強い熱意と努力をされた体験談に感心して聞き入り、今もその熱意を思い出す時はげましを与えられています。大会の前日のMIA大会でもやはりテーマに因んで死者の救いの劇が名古屋支部の方々によって行なわれ、その物語は何百年もひとやに死者がいて、その中で子孫が先祖の記録を提出された、父と娘はにこにこして手を取り合ってひとやからパラダイスに出てゆきます。一方記録の提出もなく現世で誠命を守らなかった一人の教会員は、なげきつつそのままひとやに留っていかねばならないという劇で、主演の三人の兄弟姉妹の熱演と、父親役であった古芝兄弟のひとつやからパラダイスに出て行く時の嬉しそうな顔が印象深く残っています。その時にも私も先祖の系図を早く提出しなければならぬという強い気持ちにかり立てられた事を感じております。当日の大会に話をされた指導者は口を揃えて死者がなければ私達も救われない私達がなければ死者も救われないとお話になりました。

その頃私は家でどうか私の先祖を救うことが出来ますように、そして神殿に記録を送る迄、私の生命をおとりあげにならないようにひざまづいてお祈りいたしました。現在迄健康で一部ではありましたが神殿に記録を提出出来ました事を心から感謝いたしております。その頃から私は戸籍謄本を取りに行き両親や祖母に先祖について尋ね、墓石を調べ墓の字を写したり仏壇の位碑を見たり親戚に手紙を書き過去帳を借りて少しずつ探求を始めました。この二年半余りの間に系図の事でいただいた手紙は十通を越えていますが、どの手紙も詳しく質問に対しての返事があり、心からのはげましの言葉と感謝の言葉に私は深く感動して涙して読んだことも幾度もありました。いただいたこのあたたかい手紙はいつ迄も大切にしております。このようにしてだんだんと近い先祖がわかるに従ってより遠い先祖の記録を探すには旅行をしなければならなくなり、今度はその機会を求めるようになりました。しかしその当時も教会の毎週の責任がありましたし、家の者にはまだ死者の救いについてあまり理解がありませんでしたので、なかなか一定の日程を取することはむづかしいでした。

そのような中にも恵まれて一六六三年九月十八日から十月一日迄東京方面へ、ついに最初の系図旅行に出かけることが出来ました。このような機会に至れましたのも、前記の方々の証詞を伺っていたのと、毎週日曜学校の系図クラブで「家族の昇栄」を習っていた、それが私に続けてはげましを与えられたのだと思います。東京へ行くに先立ち系図について、少ししか知識のなかった私に当時のアベノ支部長さんは是非渡部兄弟に会って指導を受けるようにと紹介状を書いて下さいました。お蔭で中央支部で渡部兄弟にお目にか

かることが出来まして本当に親切なる指導を受け、これから先どうしたらよいかを教えて下さいました。あなたの先祖があなたに働きかけているのです。これから頑張るようにはげましを受けましたことを嬉しく感謝いたしております。その時建築部の新田兄弟にもお目にかかり共にお話を伺うことが出来まして感謝いたしております。伝道部の系図委員会の書記をなさっている渡辺輝子姉妹からはまだシートの記入方法もわからない私に書き入れ方を教わり系図委員の小島兄弟からも探求方法について教えていただきました。上京中は港区役所で戸籍謄本を取りに行きましたら、父方の亡祖母は新潟県の佐渡からお嫁に來たことがわかりまして、帰宅後佐渡の相川町役場に手紙を出し、祖母の生家の謄本を送ってもらいました。この謄本は明治五年頃日本に始めて戸籍が出来た時のもので、あとの所にこの家族の属していた瑞仙寺というお寺の名が書かれておりました。早速このお寺に手紙を出し私の先祖の墓や過去の記録があれば教えていただけようようお願い致しましたところ、数日後和尚さんより返事がまいりまして亡祖母より十代前迄の直系先祖の戒名と死亡年月日が二列に並び二枚の便箋に書かれてありましたのを見た時は嬉しいというより驚きの興奮でした。父でさえ知らなかった先祖が佐渡に長年住んでいたことがわかったのも、すべて回復された福音のあるこの教会のお蔭でした。一番古い人で一六三五年寛永十二年に亡くなったお寺で、墓はこのお寺でも一番古く裏山の



頂上にあり、明治以後お参りする人もなく雑木のおい茂る中にありましたが、和尚さんは大変親切な方でわざわざ人を雇って木を切り墓に行つて詳しく約二十人の眠る墓石の字を写し取つて送つて下さいました。それから私は一度佐渡に行つて和尚さんに御礼を申し上げ、お墓まいりしたいと思うようになり、今度は佐渡旅行を計画いたしました。

交通公社に申し込みましたところ新潟で国体があり、満員でだめになり第二回目の申し込みをしましたら、その直後新潟の大地震があり又だめになりました。この時お寺の方々はどうかされたかとい

ろも出てくるのではないかと思ひまして、神戸の持ち主の所に再び借りにまいりました。しかしこのときも始めから終り迄読むことが出来ず、心を残しながら帰りました。この家は十代位も続いている旧家であったと母が申しておりましたので、まだあきらめきれずに祈りつつ親戚や知人に尋ねつつおりました。あるとき親戚の法事があり多数の親類縁者が集りました。このとき出席していた一番遠い親類の一人に尋ねましたことから、数日後この人の家に行つていくらかの先祖の残したものを見せていただく約束をいたしました。その家に行つてみて驚いたことには、私があれば程知りたいたいと望んでいた多くの亡き先祖と亡き血族の人々の記録が沢山残つておりました。それはこの人の亡き養父（私の曾祖父の兄に当る人）がまれにみる凡帳面な人で古い過去帳より新しく書き改めて下さつてあり、その他にも身近の肉身のお葬式の有様を書きまとめた物や先祖の写真等が出てまいりました。喜んでこれらをすっかり借りて帰り自分のノートに写し取りました。（写すのに丁度二日かかりました）これらの記録が発見出来たお蔭で多くの直系先祖とその子供たち、又傍系先祖までよく整理出来まして、三度目に以前全々読めなかった神戸の年回帳を借りて参りました時、丁度もつれたとモがとけるようにその中に書かれてある戒名のほとんどが誰であるかわかるようになりました。そればかりでなく、数人の直系先祖の名が追加されて見つかり、一番古い人で一六七一年死亡の人まで読むことが出来るようになり、大きな喜びでした。本当にお導きによつてこれ等の記録が私の手に入り以前全々読めなかった年回帳が約一年後に、三度目に読めるようになりましたことは感激でした。神様は人に大きな祝福をお与えになるとき、人がその努力をするのを要求さ

れるのではないかと思ひます。又その祝福を受ける時、努力が大きい程喜びも多いことを感じます。

私は度々弱くなつてこの教会から離れそうになったり、又疑問に思うようなこともあつたりしたのですが、そのようなき會員の方々のあたたかい心と系図によつていつも呼びもどされたことを心から感謝しております。系図は弱くなつて私の心と呼びさませるような不思議な力をもつて幾度も私を支えてくれました。これは確に私に与えられた大きなお導きであり、恵みでありました。又系図によつて目に見えるこの世界だけでなく目に見えない霊の広い世界が真実あることと、先祖や肉親が真実生きていることを感じる事が出来ました。この教会には亡き血族の救いがあり、神殿に於て先祖と私たち子孫とが結び固めることが出来まして来るべき来世に於ては共に神様の御元で永遠に住まれることは何と素晴らしいことでしょうか、私はまだ会つたことのない多くの先祖や血族の人々と再び会える時、どんなにか嬉しいことと思ひます。

本年一月十六日親しかつた叔父が急逝いたしました、その死に顔に接しているうちに現世の肉体は霊の借家に過ぎないことを感じました。この叔父も神殿の儀式を受けて救われるようにその翌日死亡年月日を記入した記録を伝道部へ再提出いたしました。本年七月ハワイ神殿に於てこの叔父もバプテスマ、エンゲウメントを受け、天国に於て多くの先祖と共に生きることが出来ますことは私の心に安らぎをおぼえます。叔父のお葬式の当日多数の列席者の中に私がこれから先に探求しなければならぬと思つていた直系先祖と傍系先祖の子孫の方々に次々と紹介され、親しくお話することが出来ました上に訪問の約束まで出来たことは本当に有難いお導きでした。

今迄に六十二家族の記録を提出いたしました。私の心は半分の安心感と共にまだ提出していない先祖や傍系や傍系の肉親のために申し訳ない重い気持が残っておりただに、この方々とお会いすることが出来て嬉しく、本年一年間の希望と責任感が湧き上ってまいりました。私のような者でも多くの先祖の救いのためにこの大切な責任を持って

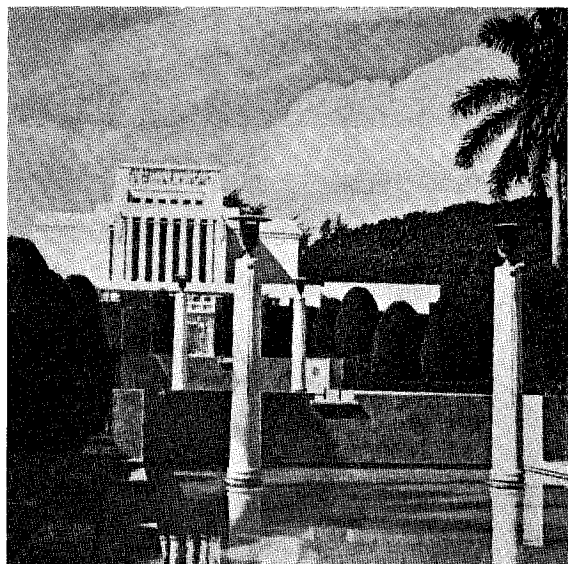
この地上に生まれることが出来ましたことは何と光栄でしょうか、これから先祖の期待を裏切ることなく神殿に記録を提出来ますよう祈りつつ努力を重ねたいと思っております。系図探求のためにはその時間と費用が必要となつてまいります。神様はいつも私に必要に応じてその必要な時間と



費用をお与え下さいました。本当に系図をする事は決して犠牲ではなく大きな祝福でありますことを証詞いたします。そして私の先祖の救いの為に心からの親切とはげましを与えて下さいました兄弟姉妹と知人の方々に感謝申し上げます。亡き私達の先祖や血族は今も霊界で生き、その子孫が神殿に記録を提出してくれるのを待ちわびている事をはっきり感じております。まだ提出していらつしやらない方々の上に早くその機会がありまして共に大きな祝福をお受けになりますようお祈り申し上げております。全部救い主イエス・キリスト様の御名前を通して申し上げます。アーメン。

この故に、いざわれら一教会員として、また末日の聖徒として、義しきに適う捧物を主に捧げん。またいざわれら、主の神殿の完成せる時、その中に於て、主が完全に受け入れたもう価値ある、われらの死者の記録を載せたる一冊の書を主に呈せん。

教義と聖約



秋元彬江姉妹の体験

この二ヶ月間私が生涯描き続けてきた夢が次々と実現し神様の余りにも大きなお恵みにただおどろいています。

その中でも一番大きな経験についてお伝えします。

私がアメリカの音楽院で勉強することが決ってから、途中、ハワイに二日間滞在し、日本での伝道を終え帰米中のモウリン姉妹とハワイへお出

迎えの彼女の御両親又、今日本に伝道中のモイケハ姉妹の御両親と共にハワイ神殿に入ることにになり、早速支部長、地方部長、伝道部長から面接を受けることになりました。

神殿に行く事がはつきり決まる前から又、決定してから後も、自分がそれにふさわしいかどうか自分にきき神様にお祈りし続けました。そして一生懸命にあらゆる面で、進歩するよう努力しました。

東京で伝道部長に面接していただく日が近

づくにつれて異国で新しい生活をし、勉強しようとしている私には、神殿に入り、神様から特別なお力をいただくことが是非必要だと感ずるようになりました。

アンダーセン伝道部長との面接はちょうど前の晩に群馬支部建築資金のための私のピアノリサイタルをすませた朝で面接の後又すぐに北海道三支部のための三つの演奏会に発たなければならず、時間的にとても忙しい時でしたが、断食と祈りによって心の準備をし、伝道部長の前に坐ったときには本当に心が落ちつき無事にすべてのことに自信をもって答える事が出来ました。

多くの質問を受けた後、伝道部長は神殿について知っておかなければならない多くの大切なことについて又、神殿に入るということをどれだけ慎重に考えなければならぬかという事、色々の心がまえ等をくわしく説明して下さり「TEMPLE OF THE MOST HIGH」という本を貸して下さいました。神殿に対する知識が一つ一つ増えて行くごとにその神聖さを身にひしひしと感じ、こわいような気さえました。

伝道部長のお話では、結婚前の若い女性がエンダウメントだけのために入るのは少ない

今度系図協会、大平洋諸島部主任エルヴィン・W・ジェンセン兄弟からハワイ神殿訪問

者の御参考にとモリソン姉妹と秋元姉妹の神殿訪問体験談を送って来ましたから今回の訪問者だけでなくすべての会員がよく読まれて将来の神殿訪問に備えられるように希望致します。

渡部

ということでした。何故なら、一度神殿に入り、多くの約束を神にちかひながら、教会外の男性と結婚するということがあるかも知れないからです。

アンダーセン伝道部長は、その事について特に質問なさいました。私は心から大丈夫だと確信しておりましたから、そうお答えしました。また「九十九才でも立派な神権者のために待ちます」ともお答えしました。いつまでもがんばるつもりだからです。

私が神殿に入ること一つだけ心配したことは言葉でした。神殿内での英語はアメリカの方でさえ、最初むづかしいときいていたからです。

いよいよ羽田空港で愛する両親、妹、親しい人々と別れ、淋しさと期待がごちゃ、ごちゃに混り合って、まだ頭の中が整理出来ないうちに、もうハワイに着いていました。美しい常夏のハワイに到着後二日目、香り高い空気が、涼しい夕風の吹く中を、みんなで連れ立ってとうとう神殿にまいりました。あざやかな緑にかこまれた真白な建物のその神聖な姿を忘れることが出来ません。

青々とした芝生のじゅうたんでしきつめられた神殿の敷地に一歩足を踏み入れたとたん

何か違った感じ、違った世界に入ったような興奮を覚えました。なかに入って見て最も強く感じたことは、今まで自分が想像していたものとは全然違うということでした。本当に信仰が強く、福音をよく知らなければ、一つ一つ聞き、経験すること理解する事は出来ないということを知りました。この世のことと余りにも違うからです。私はただ無我夢中でした。すべてが新しく、きくことば一つ一つを聞きもらすまいと懸命になるのですが、分らないことばや、聞き落すことが度々ありましたが、前にならったこと、きいた事を思い出したり、時には知らない言葉でも、直接心の中にその意味を感じることが出来ました。それにモウリン姉妹や御両親、モイケハ姉妹の御両親、親切な神殿で働く兄弟・姉妹に助けられ、すべてのことを無事に果し通ることが出来ました。

目に入るもの何かも美しく、素晴らしく本当に神様の近くに來たという気持がしました。私たちが神様と共に住み永遠の家族と生活を共にするときには頂度、こういう状態になるのだなと始めて経験しました。私たちと共にその夜、ハワイ神殿で過した人々の人種は様々でしたが、すべての人が永遠の大家族

で本当の兄弟であり、姉妹であるように感じました。すべての人が美しく、やさしく、愛と平和にあふれていました。

全部の所を通り終った時、私は余りの感激でポロポロ涙をこぼしてしまいました。そして、日本人の父、母、妹又愛する兄弟、姉妹のことを一人一人思い、ああ早く同じ感激を味わわせてあげたいと思いました。

アメリカに着いてすぐ、ニューヨークに行き、ジュリアード音楽院の試験を受け二日間にもわたり受けましたが、その厳しい試験の時も、受けにきている人の中で自分だけが神殿を通してきたのだと思うと、本当に誰も知らない不利な状態でありましたが、自分の上に神様の特別のお守りがあるのを強く感じました。九月にジュリアードでの新学期が始まるまで夏の間はソート・レークで過すことになり今度は、ソート・レーク神殿に入る機会に恵まれました。

ハワイのとは違うその荘厳な美しさ、又中の広く立派なことには目を見張りました。その日はいっぱいの人で、何百人の兄弟姉妹が一緒でした。また五十八組の永遠の結婚があり私たちは特別に許されて一つの結婚の式に参列することが出来、神殿で永遠に結ばれる

美しい結婚式をみて胸がいばいになり、また涙をポロポロこぼしてしまいました。若い二人の幸せそうな喜びにあふれた顔を忘れることが出来ません。神殿で経験したすべてのことが私の証をますます強く育てました。

私は今まで、何故ある人々が神殿に入って神様と大切な約束をしたにも拘らず、神様を忘れて否定し、福音から離れるのか理解できませんでした。けれども、今ようやく分ります。神に近くなればなる程、また多くの知識を得れば得る程、その様な強い力を味方にさがし求めているサタンは自分のものにしようと、強い力で人に働きかけます。弱い人間はそれに負けてすっかりとりこになってしまふのです。ですからアメリカで行なわれている様に神殿に入るために必要な色々の勉強、聖典、また神殿に入る前に、少しでも多くの知識を身につけることが出来れば、本当に素晴らしいと思います。そうすれば、もし神殿の中で翻訳されなかった場合にも、どういう意味か又、どういうことが行なわれているのか理解することが出来、その素晴らしさをもっと深く経験する事が出来るのではないでしょう。か。そして、その美しい霊的な経験は忘れることの出来ないものとなるに違いありません。

ん。私たちにとって最も恐い事は、神殿で神と誓ったことを破る事です。私は本当に強くなつて最後まで神に忠実であるように努力します。

もうすぐ日本の愛する兄弟・姉妹が、ハワイ神殿にいらっしゃいますが、私の経験したことが少しでも皆様の準備のお役に立てばと願いながら筆をとりました。高価なる真珠、アブラハムの書四章・五章創世記の神の地球創速の記事、教義と聖約、一二四章三九、四三節、その他多くの箇所書かれている神殿の儀式等についてよく読んでおかれるようになさって下さい。

日本の兄弟姉妹の信仰の強さは、神様も本当にお喜びになり、誇りとされていることでしょう。今に美しい神殿が日本の地に建つ日がやってくることを確信し、私も心から待ち望んでいます。なつかしい兄弟姉妹のお二人お一人の上に主の豊かなお守りがあり支部が益々発展するよういつもいつもお祈りしております。

モウリソン姉妹の体験

私が伝道を終えて帰米した時に共に米国に來た秋元彬江姉妹と私は曾って同僚宣教師で

あった。そして現在ソレトレークの系図協会で働らいている姉妹を訪ね、その兄弟であるジェンセン兄弟と現在進行中の日本の聖徒たちのハワイ神殿訪問計画に就て語り合いました。彬江姉妹が彼女の最近の神殿訪問の喜びと又いろいろの氣をつかったことなどを話した処、それを公表すれば他人のために非常に参考になるだろうとジェンセン兄弟が言われたのでここに事の次第を申し上げるわけであります。

私の家族は何ヶ月も前から秋元彬江姉妹のスポンサーとなつてニューヨークのジュリアード音楽学校に呼ぼうと計画していました。彬江姉妹と彼女の家族は十一年以上も忠実な日本の聖徒で彼女はまだ子供の時に会員となつたのであります。ですから当然アメリカに來るようになった時、神殿の中でエンダウメントを受けたいと望みました。勿論、そのように長い間教会の会員であり、又お母さんに励まされて彬江姉妹はいつでも末日聖徒として神殿に入るような生活をして居りました。

最近彼女が神殿に入りたいと言つた時、私は驚かなかつたけれども実際にその日が来る迄私は何も言いませんでした。私は自分が主

の神殿を訪ねた時を振り返って、どのように話したら、あの厳肅な状況を実感が迫るように伝えられるだろうかと思案しました。私たちは多くの事を話し合い断食し祈って答えられたような気がします。私たちがお互いに又家族や教会の人たちと神殿のことに就て話し合う時私たちの心は燃えしました。私たちは必要な面接を受け神殿に入る日が来る迄、タルマツジ長老の、至高者の神殿、(特に神殿衣と幾何学的な宇宙構成の章に就て)教義と聖約から系図に関する聖句、能力を授けられる、四三・一六、……家を建てる、九五・八―八、一二・四〇―一〇五・一〇―一二及びその他多く聖書から、更に特に創世記及び高価なる真珠の天地創造に就て英語と日本語で共に勉強しました。この天地創造の章は特に神殿訪問を希望する者に大切な手引きとなります。又タルマツジ長老の、信仰箇条の墮落及び救いの計画に就て、も勉強しました。

このすべての勉強が役に立って彼女が神殿に入った時、語られた言葉をよく聞取ることが出来たのです。エンダウメントは英語でなされましたが、前以て私がいろいろの言葉も教えていましたので容易に理解されたのでした。彼女は神殿に入る前に勉強したかいが

あってこの訪問が如何に有意義で霊的なものであったかを喜び感謝していました。彼女は多くの外国人よりも英語がすぐれていたからで若しも英語が出来ない聖徒たちが同様の状態でエンダウメントを受けたらどんな印象を受けるであろうかと心配しています(訳者注 今回の日本の聖徒の場合は日本語でされるからこの心配なし)。

彼女が最初に神殿に入ってから、私たちは夏に両親と生活を共にするためにソルト・レークに來ましたが、それは私たちに主の家に就て学ぶ更によい機会を与えました。私たちは主の家を訪ねる度により多く学んで行き一週間おきに訪ねたのであります。彼女は何度かその度々の訪問の喜びをもらいました。訪ねる都度、新しい知識を既に受けた基礎的な知識に加えて行きました。このことが又、遠い外国から來た聖徒たちがわずかに数回神殿の儀式を受けただけで、又遠くに戻ってそれを再新する機会に恵まれない場合どれ程効果的なものとなるか気になるのであります。ですから今度の日本の聖徒もなるべく数多く儀式を受けれるように、又自身の先祖のために受けれるように前以て系図を準備し予約しておけば、効果的であり日本に戻ってから

健全な基礎の上に系図の發展を期待出来ると思います。

数ヶ月前彬江姉妹が最初に神殿に入った時の感激は彼女自身が告げれるでしょうが、その時の彼女の喜びの涙、福音、主に対する強い愛の表現を私は忘れることが出来ません。

この変わった異国的であるべきものがたとえむづかしい言葉があったにせよ、よく理解されて美しく素晴らしいものとなったのです。彼女が最初の訪問以來幾度か、これは私の生涯にとって一番大切な時でありました。私は忠実な聖徒とこの神殿に來て結婚するため十九才迄でも待ちますと表現しましたが、これで私は彼女がよく理解したことを知り、又理解すればエンダウメントを受けた乙女が教会外で結婚する恐れのないことを疑わないのであります。

この文が皆様に少しでもお役に立てば幸と掲載させていただいたことを感謝する次第であります。

伝道本部だより

神 権

福岡

ハヤシ ムネミツ (教)

バプテスマ

一九六五年一月

新潟

東京中央

シオミ タカユキ (教)

イトウ マサトシ

ムラカミ マサヒロ (執)

ツチャ トシオ (教)

甲府

札幌

浦部 輝雄

京都

石井 稔 (執)

金沢

イノハラ ユキヒロ (教)

石原

昭夫 工藤 祐子

東京北

増田 武彦

関 義博 (教)

大原

正 (執)

岡

光子 吉原 芳春 林 孝良

旭川

奥田 稔 (祭)

名古屋

旭川

長谷川 昭 宮 沢 京市 渡辺 賢一

東京西

岸野 陽 (祭)

シミズ タカオ (執)

平尾

典子 池田 樹志 野沢 弘子 横井 秀二

上野 英夫 (教)

田尻

貞子 東京中央 島田 和子 三戸 誠

木村 勝美 (教)

仙台

杉田 安弘 堀口 房子 東京東

桜井 光之 (教)

大槻

宗一 下田 清 坂上 利子 狩野 利昭

清水 信夫 (執)

京都

東京東 東京西

根岸 明夫

岡町

曾我

洋祐 井上 悦子 鳥海 明美

東京北

イシイ エイイチ (執)

中村

和子 水谷 真理子

津嘉山 正光

イワマ クニヨシ (祭)

名古屋

余谷 幸子

イワサキ ミチアキ (執)

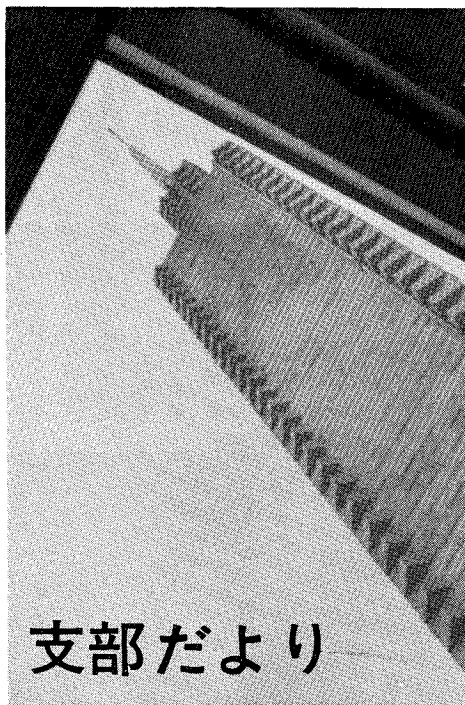
ミゾウチ トシオ (祭)

中垣

勝田 辺利雄

訂正

一九六五年二月号の九
六ページ上段二行目の
洗礼とあるは浸礼の誤
りでした訂正させて頂
きます。



支部だより

旭川支部

今日は兄弟姉妹。又お便り出来ますことをうれしく思います。雪に埋もれた町の特徴の一つである冬まつりが旭川でも二月初旬盛大に行なわれました。目抜通りの中央は、夏はグリーンベルトで冬はホワイトベルト？ になります。なぜなら高さが十メートル位もある大雪像や氷屋さんにある氷よりも、もっと大きくてきれいな氷の像がズラリと立ち並ぶからです。夏は東京サバク、又冬は何とかと

がチョッピリ寒いだけです（負けおしみかな）。でもモルモンは寒いからといって、ちかんでいる訳には行きません。福音は暑い土地に住んでいる人々にも寒い土地に住んでいる人々にも平等に伝えられなければなりませんから、会員達は冬眠しているひまなんてありません。ですから会員達は厚いオーバーをまとってホホを真紅にしながら神の仕事をするために寒い道に教会に通っています。では支部のニュースに入ります。安息日である二月七日、近藤慶太ちゃんの命名式が行

かつ風で有名な地方の方にはうらやましいでしょうね。旭川では四季がはっきりしていて変化があり楽しくない季節なんて一つありません。ただ気温がマイナス二十度位まで下る真冬

なわれました。彼は昨年の秋第二副支部長と藤兄弟の御息子としてこの世に生を受けました。熱心なモルモンの家庭に生まれ育つことが出来ますからきっと幸せになると思います。

前にもお伝えしましたが、今旭川支部ではフェロシッパの活動に力を入れています。

今度の計画は教会をだいたいハツ位のグループに分けアロン神権者がリーダーとなり、扶助協会員など二人がサブリーダーとなり、その中に求道者や会員が割り当てられています。そのグループはだいたい一月に二回ずつパーティーを開きそのグループの中で連絡を取り、お互いに強め合うようにします。そして又そのグループ一つ一つにも責任が与えられており、二月の六日土曜日に開かれた大会出席促進パーティーでは、特別集会、という責任が与えられたグループの人達が、協力し合い計画を立てて大成功をおさめました。

では次のニュース。ひさしぶりに扶助協会のことをお知らせします。二月九日の仕事会は、いつも都合で集会に出席出来ない増田姉妹のお宅で開かれました。今進めている仕事はレリス糸とビーズを使ったおさいふ作りです（ガメツイですか？）出席した姉妹達は十

五名位で、ストーブを囲み増田姉妹が用意して下さった食事をいただきながら、扶助協会にふさわしい家庭的な雰囲気の中で仕事を進める事が出来ました。

いつでも支部だよりを見ると旭川支部が相当欄を使っているので申し訳なく思っています。でもお知らせしたいことがたくさんあるものですからつい……。スィマセン。では又

聖徒の道委投稿委員 田中静穂姉妹記

京都支部

全国の兄弟姉妹、お元気ですか？

京都支部からお便りします。京都もどうやら寒さがうすらいで、支部の庭の梅の木が白い小さな花をつけました。自然は変わる事なくめぐってきます。でも今年の春は、京都支部にとって変化があります。先に、佐々木姉妹がチャーチ・カレッジに行かれてから、淋しいというよりしずかになった京都支部から、又、五人の兄弟姉妹を送り出すことになり、二月二十日に送別会が催されました。大卒を卒業して就職する長井恒彦兄弟、岡本亮兄弟、鳥居定幸兄弟、結婚する住友妙子姉妹、宣教師になる高良慎清兄弟。皆、京都支部にとって柱の存在でした。ポツカリと穴のあ

△清水寺遠景△



た様な淋しさにもかかわらず、会はずこぶる愉快そのものでした。何よりも傑作だったのは、兄弟姉妹数人のパツと広がったステキなスカートでのラインダンスとも何ともつかぬ奇妙な踊りです。姉妹達のあざやかな手つき、腰つき、目つきにならって、いとも見事

に腰をひねり、軽やかに(う)足をあげたりしている姿には吹き出さざるを得ませんでした。あちこちから笑い声と悲鳴がきこえ、前列にいたさしもの強心臓の兄弟達も目をおお

(174頁へ続く)



△青島△



中央支部 成田ウメ姉妹

今日こうしてお話することが出来ますことを心から神様に感謝致します。一殿とへりくだり聖霊のみちびきで私のつたない話が皆様に伝わりますように祈りつつお話を致します。

昨年の夏、私はエンが有りましてアメリカに渡り三ツの神殿に入る事が出来ました。神様のお家は、全く清く美しく心が清められる思いで何一つ悪いことが考えられないのが不思議で御座いました。本当に清くて悪いとこをかくす所が御座いせん。お話に聞いたことで御座いますが、一人の婦人が信者に成った後もお茶がやめられず常に心がとがめられておりました。娘さんが伝道に出るので神殿に入りたいと強く願っても入ることが出来ません。それである晩夢を見ました、廻りの人が目を赤く泣きはらしてしきりに鼻をかんで居ります。美しい音楽が鳴っておりました。この婦人が隣りの人に話しかけても返事をしてくれませんでした。横の人をついても何の答えもないの

神殿に入れた喜び

今回は実際に神殿に行つてこられた姉妹の体験記を載せたいと思います。

日本の聖徒が神殿に行つてくる日が間近に迫ってきましたが必要な書類を整えるときにこの体験記にふれて一層の努力をされるようにと祈っております。

体験記は中央支部の成田ウメ姉妹です。娘さんが昨年神殿で永遠の結婚をされるときアメリカに行つて得た体験記であります。

で、アラ!! と思つて一番前に出たら何んと自分の葬式では有りませんか、そこで婦人は思いました、今私は死なれない、まだまだ悔い改めない、それでも、もうこの世界にはおられないし天使のさそいが有るので白く輝いた細い道を天使のみちびくままでについて行きました。かたい鉄のとびらを開けて見たら目があけられないのです。光が強くてしばらく立ち上りやとなれたのでおずおずと入つて行きました。床がピカピカ輝いて壁が有るのか無いのか解らない位カーテンは真白でチリ一つ有りません。そこで三人の人が大きな机の向う側に座つております前に立たさされました。よく見るとその顔の美しいこと気高く光々しいこと、柔和なこと、「アッ、キリスト様だ」と手を思わず口にしたらどうでしょうヤカンをしつかりとにぎっているではありませんか、自分ながらびつくりしてかくそうと見渡しましたが、廻りの美しさにそのススによごれたヤカンのかくし場所もなかったもので御座います。婦人は全身汗びっしょりで目が覚めました。急いで見るとどうやらまだ自分の部屋ではありませんか、それから彼女はひざまづいて天のお父様にお祈りました。もう一度悔い改めの機会を与えて下さいました

ことに感謝しながら、きっぱりお茶を止めました。そして娘さんが伝道に出る時、母親も一緒に神殿を通りました。そしてすべての儀式をすることが出来ました。夫と妻とが結び固めをして永遠の結婚をしてそれを話す彼女の顔は、白い髪に似合わず幸福なピンク色をしておられました。

私は、千鶴子と美智子と並んで、神殿に入りました。今日は始めて美智子も私も、神殿に入ったので御座います。足が下についてなくてスーと歩いているような頭はカラッポで何にも入っておりません。ただ、幸福で幸福で私はなくした年老いた父と母又幼なくて行った男の子がどんなに素晴らしい言葉でも言い表わすことの出来ない清い平和な所に天のお父様の家にいかれたのだから心配することはない、かえって先に行ったあの人達がうらやましくなる気持で御座いました。特に半年も生きないで死んだ通夫のことを折にふれ時にふれて案じておりましたが、一度神殿に入りましたら通夫がどんなに幸福な生活をしてどんなに忙がしい思いをして福音を伝えているかとしみじみとこの教えが身体のすみずみまでしみ渡ってかえって幸福な思いで一否に成りました。私も時が来て、あの人達のいる所

に行く時にはさぞ父が、母が、又チビちゃん通夫が「あつお母さん、待ってたよ」と迎えに来てくれることで御座いましょう。

私は、次の世界を信じております。そして以前の世界も、終りのない福音が、この限りない生命にどんなにやすらぎを与えてくれることでしょう。私は、この教会の教えが神殿を通った時から、かぶさっていたキリが晴れて少しずつ晴れ渡って行く空のように解つて来たので御座います。

福音の意味がそして福音が私の生活の身体の一部と成って生きて来たので御座います。そして神殿に入るたびにものともっと深く理解されるように成って来るので御座います。

私は、今度ハワイに行かれる信者の方達は心から尊敬せずにはおれません。生活の中から貯金して神殿に行けるように神殿に入ることの出来る価値ある生活を、清く身を保つて死者のパペテスマ、結び固めの式と、永遠の結婚と、夫婦が永遠に終る事なく一緒に、日の栄え、に入れる資格を受けるために神殿に行く用意をなさっておられます。私は、こんなに素晴らしい信者と一緒にこうして今日もこの教会に出席出来るのがどんなに幸福か

神様に感謝したい気持ちでいっぱい御座います。私たち一人一人が親を、祖先を、兄弟姉妹を、夫と妻として子供とこの短かい生涯だけでなく死んだ後も又大きな家族として共に終りなく生活したいと思います。人間いくら頑張ったところでわずか八十、九十位のもの、皆が共に一点のチリもない所でヒガミ、ネタミ、マズシサ、ケンカのない美しい所で楽しく暮らせたらどんなに良いことでしょう。

聖典の中で心暖たまる一節が私の心に有ります。「そは彼らその為せる行為によりて裁かれすべての人はその行ないによりて備えられたる住家において各自の領分を受くべしなり」教義と聖約七十六章百一十一節

私共はどんなであつたかて裁かれるのではなくてどんな事をしたか、どんな人に成つたかによつて裁かれるのであります。この教え程私を勇気づけそして神様の私達子供に対して示された愛をしみじみと感じ示す所はないと思います。この裁きに使用される一つの点はずつと各々一人のネウチの進歩で有り信者はかりでなくあなたの方の各自の分野における活動、私共の態度、どの位進歩したかに

(174頁へ続く)

系図家族の記録作成上の注意事項

渡 部 正 雄

一、黒インキでタイプ又は活字体で書く（ヘボン式）
二、系図は一度提出すれば家族の記録がその系図以上に適る場合を除いて提出しなくてもよい。

三、系図表（英文） 右端の最上の線はその系図表の番号であり二線以下は十六番から三十一番迄の先祖の内、先に継続した先祖から（順を追うて）番号を附して行きます。従ってこの線上の番号とその先祖が一番（左端）に移された系図表の番号（右端最上）と一致する筈です。

四、右の場合（十六番から三十一番迄の先祖を他の系図表の一番に移して継続する場合）移した系図表の左端上の、この系図の一番の人は、系図番号〇、その一番の人を移して来た先の系図表の番号、の〇番、即ち十六番から三十一番の間、と同一人ですとして系図表を継続して行きます。

五、姓 名

1 姓は全部大文字でその下にアンダーラインをする。妻の場合実家の姓と婚家の姓が同一の場合はダブルアンダーラインとする。夫が婿養子の場合実家の姓を先に書き H として養家の姓を書く。

2 名は頭文字だけ大文字、姓の後にカンマを附して書く。名が幾つかある時はアンドで挙げる。

3 戒名に就ては三月号参照。

4 ローマ字の次に必ず漢字を入れる。子供の欄は一段下に書いて一人二段とする。

5 子供の欄の性別の F M 及び直系の X を忘れないこと。

6 子供の名が不明で性別がわかってゐる時は姓の次に Son 又は daughter と記入する。

7 死産の場合は stillborn son 又は daughter とし、sealed の欄に do not sealed とする。

8 八才未満で死んだ場合死亡の欄に infant（日附不明の際）と記し、バプテスマとエンダウメントの欄に child と記す。

9 夫妻が内縁関係の場合結婚年月日の欄に not married と記入する。

六、日 附

1 西歴の後（子供の場合は下）に必ず日本の年号と年度（例えば明治二十五年）を入れる。

2 生年月日の次の洗礼命名年月日は幼時他宗派に属した人で

生年月日が不明の場合に記入する。

- 3 (J)三月号参照 戸籍謄本上の結婚届出日が結婚年月日に記入され最初の子供の出生年月日との開きがない場合又逆になっている場合にのみ西暦年月日の前に Reg と入れること。
- 4 埋葬日は火葬の場合は Cremated として、火葬日を記入する。これも死亡月日か不明な場合にのみ記入する。埋葬地は火葬の場合は火葬した場所である。

七、場所

- 1 ローマ字だけ漢字は不要。
- 2 西洋式に小から大に至る。提出者の欄を除き番地又は大字小字などは不要、市(町村)郡、県、大都会は区迄記入する。
- 3 子供の欄の出生地のみ同上の場合にクを用いてもよい。
- 八、養子の場合原則として養家にシーリングされるから養父母のファミリーグループシートにのみ記入されて adopted と記す必要はないが、成長して養子となった場合、実父母のファミリーグループシートに既に記入してある時は養父母の方には adopted を入れてどちらにシーリングを望むか記入すること
- 養父母にシーリングされて且実父母の先祖の儀式を受けるため家族代表としてシートを提出する場合、実の先祖であることを註記すること。
- 九、家族代表者
- 1 家族代表者は養子の場合を除いて夫か又は妻の血族者であること。
- 2 家族代表者以外に血族会員が居らず、その家族代表者が死

んだ場合は、死んだ家族代表者名にDを附す。

- 3 この場合にのみ妻は婚家の姓を用いる。
- 4 妻の血族代表者に夫がなることはない。
- 5 妻の直接先祖の場合 daugh & daugh であり son ground son ではない。
- 6 家族代表者と傍系先祖との関係は次号の聖徒の道に載せます。傍系の場合原則として片方は in law となる。

7 継父母(それ以上の先祖の場合も)には Step を附して Stepson 又は Stepdaughter とする。

十、神殿の儀式は家族の記録に記載されてある人に対し(夫妻、子供の欄を問わず)執行されるもので系図はその見出しとしてファイルされるものである。どちらも完全に記載されなくとも最善を尽しただけの情報が記入されてあれば提出してよろしい。姓名、年月日、場所とも完全にわからずともわかるだけ例えば名だけ、年度だけ、県名だけでもよい。わかるだけ記入すること。尚 about の計算のし方は日本系図探求要覽参照。

(注) ハワイ神殿訪問者の系図及び家族の記録提出期限は、四月三十日迄本部に到着するようソルト・レーク系図協会に五月五日迄に着けば七月二十二日からのハワイ神殿訪問以前にハワイ神殿の方に提出するそうです。未提出の人は必ず期日迄に提出して下さい。又既提出の人でもこの一ヶ月間に少しでも又出来ましたら提出して下さい。

伝道部扶助協会会長 柳 田 聰 子



二月も中旬ともなると名古屋では日中の陽ざしは春めいて来ます。北海道、仙台、山形や新潟などはまだまだ雪に閉ざされているのかも知れませんが、でも時間は正確に過ぎて行き、暖かい春も近づいていることでしょう。近づく春を思うと、この伝道部内のあちらこちらに建設されている新しい教会堂が目に見えます。そして、教会堂建築のために信仰篤い若者達が召され、この世の業を描いてそのお召に応じ、出て居られるのを見聞きして、彼等の信仰と奉仕の上に築かれている神様の御国に結ばれている一人として、私自身深

く感謝せずにはおられません。さらにその建築現場を持つている支部の兄弟姉妹達の奉仕を思う時、安閑として名古屋に番しているのが申訳ないように思われてなりません。

その現地の扶助協会の姉妹達は、夫々自分の勤めのある人は出勤前に早朝四時半、五時という暗い内に建築宣教師のための食事を作りに行ったり、又家族の人は家族の世話をする他に彼等の食事を作り、建築宣教師の衣類を洗濯したり、夜はそのアイロンかけに次々と奉仕に出て行くというを見聞しますと、その忠実さ、勤勉さに感動し、涙が出そうになります。東京に於ける大会で私はその完成した教会堂を見ましたが、あの立派な建物が出るまでに馴れない手で行なわれた建築宣教師の御苦労はもとより、その他のどれだけの兄弟姉妹の犠牲的奉仕が積み重なっていることかと思われます。正に我が日本の国に現われた驚嘆すべき業ぞと思います。しかし私はそこに一生懸命働いた奉仕者達の中に教会堂が完成してから姿を見せなくなった人々があると聞いて本当に悲しく思いました。どうしてそのようなことが起ったのでしょうか。

大きな喜びを受けることの出来る人、否大きな喜びを感じる事の出来る人は苦しみを知っている人だと思えます。仕事についての障害、家庭内での障害、肉体的な疲労や苦痛を経験した人こそそれを乗り越え望みが叶った時の喜びは大きいと思います。今各地で必死にそれ等の障害を乗り越えて奉仕しておられる兄弟姉妹達は、完成の時の喜びの一番大きい人々だと信じます。建築の大事業は誰か少数の人で出来ることはありません。又、完成の喜びは少数で味わうような小さなものではない筈です。一人の落伍者も出ないように、又皆で最後まで頑張ることが出来るように充分な配慮と励まし

箴言

子供らよ 父の教えを聞き、
悟りを得るために耳を傾けよ。
わたしは、良い教訓をあなたがたにさずける。



が必要だと思えます。忙しい時、それが懸命に努力している時であればある程人間の感情は昂ぶり傷つき易くなっているのではないでしょう。お互いに労わり合って、細かく配慮しなければならぬと思います。そして本当に大きな喜びと感謝と共に味わうとき、共に働いた兄弟姉妹は切っても切れない強い愛の絆で結ばれることでしょう。今私は名古屋にあって、せめてそのような憧れと望みを抱きながら心からお祈りさせて頂きます。

(168頁より続き)

って逃げ出す始末でした。不思議なことに兄弟達の方が足がスマー
トだったんですよ。とにかく残された我々は、淋しさに負けずに、
さらにさらに、ハッスルしようと思気込んでいるところです。

二十五日にはMIA主催のキッチン・カーニバルが催され、狭い
庭で(水)タキ、豚(汁)(いため)物、肉の少ないスキ焼を作って、な
ごやかにおいしくいただきました。

京都支部は、また若い者ばかりになりましたけど、力強く、助け
合って、楽しく伸びています。神様の御名の下に集えることを心か
ら感謝致しております。

全国の兄弟姉妹の皆様、春ももうすぐそこに来ています。お互に
しっかり頑張っていきましょう!!

(170頁より続き)

依ってで御座います。もしも私共愛する者が、いつの日か日本に神
殿を持つことが出来、儀式を完璧に出来る日が来るならばどんなに
素晴らしいことで御座います。日本の信者達みなさんが、貴女
が、私が、神殿を持つにふさわしい信者に成長すれば必ずや神様は
与えて下さいます。私共は、その土台石になる様に愛する者のため
に、又自分の救いのためによりこんで、勇んで土台石になるうでは
ありませんか!!

このお話をすべて愛する御子イエス・キリストの御名によりて中
し上げました。

アーメン

汝らわが言うところを行なわば、主なるわれ

これに対して責任あり。されど汝ら

わが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。

（「教義と聖約」八十二・十）



訪問教師のメッセージ

「教義と聖約」にもとづいて実践する真理

メッセージ第64

1965年5月第1週

目的

ただ主の律法に従うことよってのみ
約束された祝福はもたらされることを
示す。

教義と聖約八十二章十節の主の声明は、すべての神性な真理の根本的な表現であります。天父によって私たちに与えられた約束は不変であります。それらは神性な律法に基づいており、もしも私たちが主が要求したもうことに従うならば、これらの約束は、完全に絶体的に成就されるのであります。私たちに對する主の約束した祝福を受ける鍵は従うこととあります。私たちは次のように告げられております。『そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。』

すなわち、われら何にても神より祝福を受ける時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。（教義と聖約一三〇・二〇—二一）

従順は天上の第一の律法であります。それはすべての成功及びすべての完成の基礎であります。私たちの信仰箇条第三項は、キリストの贖罪によってすべての人類は救われると告げております。けれども最高の栄えに高め

られるには律法と福音の儀式に従うことを条件としております。従うことの興味ある一つの状態は、私たち殆どの者が何の躊躇することなく、自然の法則を認め、これに従っていることであります。例えば私たちは電力を用いて私たちの家庭を暖かくし明かるくし、又家財道具や設備を動かし、その他いろいろな便益をもたらされております。私たちは、これらのことを電気的作用する法則に従ってなしておりますが、霊的な祝福を支配する律法に関しては、ともすれば私たちは充分に理解していない為があるいは、又、従う結果が直ちに現れないためによく疑ったり、ためらったりするのであります。けれどもこれら霊的な律法は正に自然の法則と同様に確かで現実的なものであります。

肉体的な又霊的なすべての祝福が固くその律法とそれに従うことに基ついているのであります。従順は信仰と同様に力の根源であります。従順を通じて私たちは私たちの成熟を示し、私たちの謙虚さと素直さの具体的な証明を与えるのであります。謙虚と克己に関連する従順の力の卵象的な模範は、旧約聖書の中のスリヤ王の軍勢の長ナアマンの話に見られます。彼は大勇士でありましたが、らい病

をわずらっていました。彼は予言者エリシヤが神の力によって、この恐るべき病を匿せると聞いてエリシヤの許に行き祝福を乞い願いました。予言者はナアマンに、ヨルダン河に行つて七たび身を洗いなさい。そうすれば彼の体は完全になるであらうと告げました。スリヤの大勇士はこの簡単な指示に落胆しました。彼はエリシヤが彼にもつと何か劇的なことを要求するであらうと期待していたのです。彼のしもべたちが彼に「わが父よ予言者があなたに、何か大きなことをせよと命じても、あなたはそれをなさらなかったでしょう。まして彼はあなたに『身を洗つて清くなれ』と言うだけではありませんか」と言いましたので、ナアマンはエリシヤに従つて七たびその身をヨルダン河に浸して匿されました。(列王紀下五・一—一四)

この物語は従順の力を説明しております。従順を通じて私たちは主の祝福に扉を開くだけでなく私たちの主に対する愛を示すものであります。主は言われました。「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である……わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであらう。(ヨハネ伝一四・二一) イエスは又同様

に、私たちに約束しています。もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのである。(ヨハネ伝一五・一〇)

私たちの御父は、そのいつくしみある愛情から私たちに、若し従えばその愛と導きと祝福を受けられる律法と誠命を与えられたのであります。誠に主は、私たちが彼の言うことを為せば責任を負われますが若しも私たちが彼の言うことをためさなければ私たちは約束を受けません。

望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に折りなさい。

(ローマ人への手紙十二〇十二)



戦争の予言



神学

扶助協会レッスン第64課

1965年5月第1週

「教義と聖約」86、87

目的

小麦と毒麦のたとえ話を理解し、ジョセフ・スミスが真の予言者であることを証明する。アメリカの市民戦争及びそれに続く世の出来事に就てのジョセフ・スミスの或予言を学ぶ

序文

本課で学ぶ二つの啓示は一八三二年十二月に受けたものであります。この日の前に主は幾度も、若し彼らが悔い改めなかったら、この神権時代に彼らの上に災害の日が訪れるであろうと啓示しました。(教義と聖約一・一一一七、三五、五・一五—二〇 二九・一四—二一、四五・二六—四四)

八十六章

一八三二年十二月の始めにジョセフ・スミスは麦と毒麦の譬を説明する啓示を受けました。この啓示は新約聖書に出ているこの譬を多くの点で明確にしているであります。(マタイ伝一三・二四—三〇、三七—四三) 新約聖書では種をまく人は主であります。啓示では使徒たちが種まく人とされて居ります。何となればこの譬はこの世代に成就されるので、その後の事実はこの地上の民に直接福音をもたらしたのは使徒たちであることを

指摘して居るからであります。使徒たちは直接救い主を代表するのでありますから彼らの行動は主の行動と同じであります（教義と聖約一・三八）譬の中で表は主の使徒たちによ

つてまかれるのですが反対に毒麦はサタンとその弟子たちを代表して居ります（マタイ伝一三・三八 教義と聖約 八六・三）

この二つの譬は共に遂には毒麦は焼かれ麦は保存されて終局に於て主の勝利となると参照して居ります。（マタイ伝一三・三九—四三 教義と聖約八六・七）啓示で大切なことはこれらの譬が成就されるのは末日であることの真実であることを示していることであります（教義と聖約八六・四）福音の回復によって種は再びまかれたのであります。けれども主は収穫の時迄毒麦を抜き取ることによって小麦の軟かな葉が損われることをお許しにならないのです。そしてこれは、天使らが……畑に遣わされて刈り取らんことを待ち構えていた時でもそうでありました（同上五節）

現代の予言者は語る

一八九四年六月二十四日、ブリガム市に於けるソルト・レーク神殿の作業者たちの証会でウィルフォード・ウッドラフ大管長は彼が示現によって受けた末日に於ける或出来事に

就て述べました。破壊の天使、と、麦及び毒麦、をほのめかして八十六章のメッセージを強調しました。

「私はここに集って居られる皆さんにたずねたいです。私が夜に続けて示現を見、この世に注がれようとしている強大な裁きを見、私がこれらの事が真実で、それがユダヤ人と異邦人の目前に迫っているのを知り、これらが真実であることを知って居るのに、そして私が神とこの世の面前に、この地位を占めてゐるのに、私はこの人々に、この地上の民に声を上げて警告しないでいられるでしょうか？ 私はもうこの人々と逢えないかも知れません。それがどうなるか私は言うことは出来ません。けれども私が生きてこれらのことを眼前に続けて見ている限り、私は声を上げて警告するでしょう。さて私が皆さんにおたずねしたいことは、現在この地上に十四億の人が居ますが、彼らすべての殆ど肩の上迄雲が垂れ下って居るのであります。今私たちのこの戸口に迫っている大災又は裁きから守られる人々は誰でしょうか、何処に居るのでしょうか。御存じですか？ 私が告げましょう。神権を尊ぶ神権者でその祝福に倣う者だけが安全に守られるのであります。彼ら

は死すべき肉体を持った者でこの裁きから守られる唯一の存在であります。その他の如何なる人もこの裁きから守られる権利を持って居りません。その裁きは今や私たちの戸口に在ります。この民は全くそれを逃れることが出来ないうばかりでなく、それはソドムとゴムの裁きのように降るでしょう。そして神権者以外の如何なる者もその怒りから守られないでしょう。神は麦を毒麦と共に刈ってしまわないように、破壊の天使を長い間、止めて居られたのです。けれども今私は貴方がたに告げますが、これらの天使は既に天の門を出発したのです。そして彼らは今やこの民の前に立ち裁きをふり注ぐべく待期しているのです。あります。今日この日から彼らはふり注ぐでしょう。災害と問題はこの地上に増え、それらには意味があるのであります。これをよく覚えよく考えて下さい。若しも貴方たちがよく貴方たちの義務を果し、又私が私の義務をよく果すなら私たちは守られて平和と安全の内に、その災害を通過するであります。聖文と啓示を読みなさい。それらはすべこれらのことに就て貴方に告げるでしょう。大変化が目前に迫って居ります。これから二十年間に地上の民の間に大いなる変化を見るでしょう

う。私はわかりませんが貴方がたは生ながらえてそれらを見るでしょう。私はこれらの事の重圧を感じここに話せずには居られないのであります。私たちは福音の力によって逃れることが出来るでしょう。(YW誌、五卷五一―五三頁、一八九四年)

その後二十年目は第一次世界大戦が始まって、大いなる変化が生じたのであります。諸政府は變り、国民間の不安は高まったのであります。国民の間の争い、戦争の恐怖が人々を犠牲に供しました。技術は進歩し人々を殺害する為のよりよい武器が考案されました。その頃から自然の災害も明らかとなって来たのであります。

大いなる約束

八十六章の終りの部分である八節から十一節迄に幾つかの重要な真理が与えられて居ります。これらの真理は末日聖徒がその血統に従って生き、又主が彼らになした約束に生きるように強調して居ります。聖徒たちは父の血統により正当な世嗣として神権を有つ者として、イスラエル家の救い手たちとなる特権を持って居ります。或場合に人は末日聖徒たちのイスラエルの血統は単に比喩的なものであると思われるかも知れません。けれどもこ

の啓示は私たちは肉に由って神権の正当な世嗣であると言つて居ります。(九節)その子孫が福音と神権の保持者となるであろうと約束された祝福師たちの實際の子孫であります。(高価なる真珠 アブラハムの書 二・八一)

(一)主は予言者たちによって語られたことが、この末日に世の為に成就するように、これらの約束が彼の選民と共に留るように私たちに確認して居られます。この地上に於て他の如何なる民もこのように大きな進路を持つて居りません。恐らく或者はその進路を進まず彼らの任務を果さないかも知れません。けれどもこの末日の御業は止りません。

戦争の予言

末日に關しての予言者たちの言葉は今や成就されんとしつあると言う天使モロナイの予言にも鑑みて世の中の出来事を注意深く觀察しながら予言者はこれが末日であるという事を彼に示す若干の出来事を記録して居ります。それらの記録の内に次のような八十七章の序文があります。

教会が荒野の方へ移動して来てからたしかに民の間の問題が以前にも増して、はっきりして来しました。コレラの惨禍は地球上の殆どの大都会に於て怖るべき状態となりました。

疫病はインドに生じ又その莊觀さと偉大さを誇つていたアメリカ合衆国も壊滅の危機にさらされたのであります。南カロライナの民は議會を開いて(十一月)州の自治独立宣言の法令を通過させ、一八三三年一月三十一日(木曜日)をへりくだって、全能の神にその祝福を授け給はんことを、又彼らの領域内で自由と幸福が回復されるように乞ひ願つて、祈る日と定めたのであります。ジャクソン大統領はこの叛乱に対して布告を出し、それを鎮めるに充分な軍隊を召集し、この迫り来るべき危機から国を救い祝福を授け給はるやう神に願つたのであります。

一八三二年のクリスマスの日に私は次の啓示と戦争の予言を受けました。(教会歴史一・三〇一、八十七章が続く)

彼の前にある上述の予言と、この世代に主の言葉が成就することの約束を与えるような世の状態の成り行きに予言者は合衆国の状態に就て深く考えたのであります。この戦争に就ての啓示(八十七章)を受ける一年前に次の二つの大切な啓示が大いなるアメリカの内乱を予告したのであります。

汝らは遠国に戦あることを聞けば間もなく大いなる戦遠国にあらんと言ふ。されど汝ら

は己が国の人心を知らざるなり。(教義と聖約三八・二九)

二番目の予言は更に特に合衆国の状態に言及して居ります。

汝ら外国に於ける戦いの事を聞く、されど見よわれ汝らに告ぐ、戦いは近し正に汝らの門口にあり。されば汝ら遠からずして汝らの国内に戦いあることを聞かん。(同上四五・六三)

ジョセフ・スミスによって与えられた多くの予言の内、末日に於ける戦争に関するものは、彼が予言の賜を持っていた強い証拠となつて居ります。

アメリカの内乱に關しての八十七章の次のような主要な本質的な点が予言者の召しを支持して居ります。

(一) 末日の戦争は南カロライナの叛乱から始まるであらう。

(二) この戦争は多くの人の死と悲慘を以て終るであらう。

(三) 南部諸州は北部諸州と分裂、対立するであらう。

(四) 奴隸は主人に対抗して蜂起し、戦争の為に訓練されるであらう。

その後になる出来事に就ての予言の要素も又考慮されるであらう。

上述の又同様に一八三三年十二月二十五日以前に与えられた二つの予告(同上三八・二九 四五・六三)に加えて予言者は一八三三年一月四日にニューヨーク、ロッチェスターの新聞編集者、エヌ・シー・シート氏に次のように書いて居ります。

今、私はイエス・キリストの権能により言うことが出来ます。遠からずして合衆国に於て我が国の歴史上未曾有の殺戮の光景が展開されるでしょう。(教会歴史一・三一五)

日附と状態

前項に於て予言者の日誌が八十七章の序文として引用されました。アメリカ合衆国及びその他の世界の諸地方に於ける状態に就ての声明の中で彼は南カロライナが独立を宣言しアンドリュー・ジャクソン大統領がその叛乱を鎮圧する手段をとったことを記しています。

南カロライナに於て何がそのような状態をもたらしただろうか? 一八三三年の数年以前に連邦税法が南方の耕作者の犠牲に於て北方の産業を保護した為に南方に於て衝突を生じたのであります。一八二八年の施行税法は南方に於て忌まはしい悪法と呼ばれ、一八三二年度のは更に憎悪すべきものと言われた

のであります。この衝突が南カロライナをして、連邦税法を無効とし、若し必要とあれば連邦を脱退する迄に至らしめたのであります。ジャクソン大統領は一八三二年十二月十日に無効の布告を出しましたが、それは如何なる州も連邦から脱退することを否認しました。南カロライナは他の諸州に支持するよう訴えましたが成功しませんでした。ヴァージニアとジョルジャが同情的ではありましたが南カロライナに何をしようとしませんでした。(ウィリアム・ビー・ハッセルタイン、アメリカ歴史に於ける南部、一九八頁参照)

国民の間に危機が生じたけれども、また諸州間に武力闘争をもたらしような要素はまだ見当らなかったのであります。一八三三年の新税法の制定は南方と北方の妥協的態度を示しました。

八十七章と同じ日附で教義と聖約の他の章に予言者は次のように記録して居ります。

われ主なる神の御名によりて予言す。すなわち、人の子の来りたもう以前に、多くの流血を起すべき難局の始まりは南カロライナにあらん。

それは恐らく奴隸問題を通じて起るべし、これ千八百三十二年十二月二十五日、われこの

事に就きて熱心に祈りてありし時ある声ありて告げしなり。(教義と聖約一三〇・一二―

一三)

予言者がアメリカの内乱は恐らく奴隸問題を通じて始まり、それが原因ではなく、奴隸問題は原因に寄与するものであると予言したことは大切であります。内乱の原因に就て多くのことが書かれて来ました。或者は奴隸問題が唯一の原因であると主張し、他の者はそれを否定し、又或者は奴隸問題は単に表面上の問題で、もっと深い原因がその根底に横わっていると提案します。(エドウィン・シー・ロズウェン編集、内乱の原因としての奴隸問題、一九四九、参照)

この予言は一八三二年に受けたけれども、一八五一年高価なる真珠の初版の時迄出版されなかったのであります。けれどもこの啓示は教会の会員たちの間によく知られ、或使徒たちの言によるとそれは伝道の仕事に用いられていたものであります。ウィルフォード・ウッドラフ長老は彼及び多くの他の者が叛乱の起る二十五年前にこの啓示の写しを持っていたと申しました。(説教集一四・二) 一八五一年に於ても内乱が差し迫っていると信ずるアメリカ人は少なかったので、まして一八三

二年には彼らには思いも及ばなかったことであります。

歴史は予言の逆であります

南カロライナが聯邦政府に反対して叛き、実際の戦争は一八六一年四月十二日北部の占めていたチャーレストン港サムプタ要塞に対する攻撃を以て始められました。戦争は二十二の北部諸州を十一の南部諸州を對抗させたのであります。(教義と聖約八七・一一三)

この残酷な戦争で惨禍と死がこの地上に広がったのであります。主の予言者を除いて、如何なる者もその結果もたらされるであろう膨大な生命の犠牲と財産の破壊を知らなかったものであります。その戦争の見積り価格は八十億弗で、その当時としては巨大な額であります。南部諸州は大英帝国に援助方を呼びかけましたが、英国民はその争いに加わしませんでした。けれども英国は南方の巡洋艦にそのドックで装備することを許した為、戦後、北部に千五百五十万弗の損害賠償を支払わねばならなくなったのでした。南部はフランス及びスペインにも援助を呼びかけましたが受け入れられませんでした。

現代の戦争の始まり

戦争に就ての予言は多くの戦争に就てであ

ります(教義と聖約八七・一) 内乱は諸戦争の始まりで災禍は地上に拡大するのです。

戦争はこの地に始まりてついにすべての国民の上に押しよする時来らん。

かくして世の住民は刀と流血とによりて悲しむべく、また世に住む民は飢饉、疫病、地震、天雷、また目を射る如きすさまじきなづまによりても、全能の神の激しき怒りと懲しめの手とを感じし、ついに神の命じたまいたる滅亡はすべての国々の最後とならん。

(二、六節)

内乱の時から諸国の民は飢饉、疫病、地震及び戦争の災禍に苦しめられました。この予言の著しい成就是、一八六一年から諸国の民が国内又は国外の戦争から解放されたことのない事実に見られます。大英帝国が自国及びその連合国防衛の為に他の国民に呼びかけたのに対し応じた第一次世界大戦に地理的な結び付きというものが感じられます。(三節) 八十七章三節に続く予言の残りの部分は、内乱後、すべての国民に迄普及したその頂点に達する末日の状態に就て述べられてあるようです。

結論

ジョセフ・スミスは、この神権時代に主の

言葉を与えるように聖任されました。(教義と聖約五・一〇)彼はアメリカの内乱に就て多くのくわしい予告をしました。歴史は彼がこれらの事件の予告者であることを証明しました。

されたように今や世界は毒麦が焼かれ、小麦が集められることに備えられて居るのではないでしょうか？

考察の爲の質問

一、小麦と毒麦の譬を、ウィルフォード・ウッドラウの大管長の、これに就ての話と共に述べなさい。

二、小麦と毒麦の譬は貴方にとってどんな価値がありますか？

三、八十六章、八節から十一節迄によれば、

末日聖徒はどのようにして大いなる民と定められているのでしょうか？
四、何故ジョセフ・スミスは一八三二年十二月に世界のこと就て主にたずねたのですか？
五、八十七章の始めの三節に於てアメリカの内乱に関してなされている五つの要点を挙げなさい。

「わが言葉を宣べんと求むることなかれ。然らずして、まずわが

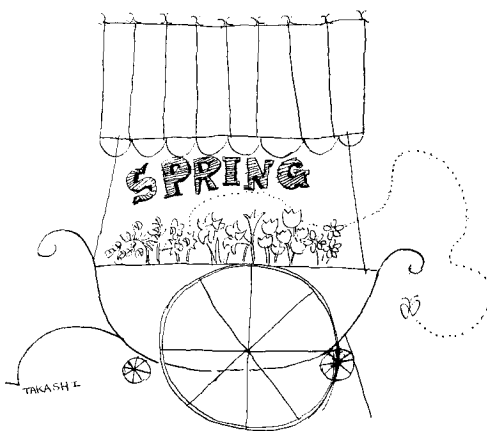
言を得んことを求めよ。……すでに人の子の中に出て行きたるわが

言を究め、また人の子らの中に出て来るべきわが言、すなわち今翻

訳をなしつつあるわが言を究めよ。

まことに汝はついに今の代にある人の子らにわが与えんとするものを悉く得ん」。

教義と聖約第十一章



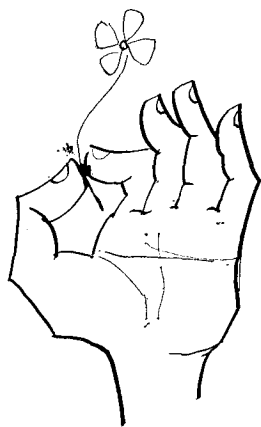
目的

家族の相互の間に又友だちとの間にお互によく意志のそつうをはかることが極めて大切なことを指摘する。

一九六五年五月第二週

如何なる団体にあつても一致協力するのによく交わりよく理解し合うことより大切なことはありません。何となれば若し一人の会員が彼の欲していること、心に思っていること、したいと望んでいることを充分に、はっきりと通じ合っていないければ、誤解、過ち、傷つけ、怒り、あつれき、悪意、更に完全な分裂という形に於て重大な衝突がもたらされるのであります。両親と子供たちの間の意志のそつうは、子供たちが非常に若い時に、最も効果的にはかられます。幼い時に彼らは常に母親の関心を受けております。この充分な関心又は注意が子供たちが話すことを学び彼らの考え及び発見を人に分つ必要を感じ始めた時に、彼らの生涯を通じて持ち続けるであろう型を設定するのであります。

精神を統一して聞き、真に心を傾けることが、よい交通（意志のそつう）の根本的に必要とするところであります。子供たちは特に彼らの両親の、彼らに対する又彼らの生活に



扶助教会レッスン

1965年5月第2週

仕事会

幸福な生活を形づくる

考察その8 よく交わること（意志のそつうをはかる）は幸福への本質的なものである（下）

効果を及ぼすことに対する関心を知り、かつ感ずる必要があるのです。お父さんやお母さんが忙し過ぎて子供の声に耳を傾けない時に交通の望みは断たれ、戸は閉められて、その

子供たちが若人に成長して彼らのいろいろな問題や希望を話そうとする時にその扉は容易に開かれないのであります。若い人たちは無関心な両親によって彼らの心の奥底にある声が窒息させられてしまっている時、それを言葉に出すのがとてもむずかしいのです。危機を通過し障害を乗り越えるには根本的な問題として意志のそつうをよくはかることであります。

熱情に燃え激し易く奔放になりがちな若い人たちが家庭に在ってお互いの意志のそつうをはかる道を保つて行くには両親に忍耐と温情と柔和と偽らざる愛がなければなりません。そして両親がそれらを保ち通すことが大切です。何となればその状態がどんなに困難であっても、お互いに意志のそつうをはかる道が存在する限り、彼らの愛が何時かは、その効を奏する望みがあるのです。若しもその交通の道が切断されるなら、両親が持っている如何なる感化力も失われて再び感じられなくなってしまうのであります。子供たちと一致しない中に生き存らへて行くためには忍耐と愛を持たねばならないということを両親にほんとに強く言わねばなりません。何となればすべての人の心を痛めるような多くのことを子供

が為すのはその両親と絶交してからです。

これは必ずしも彼らに関与せねばならないことを意味するものではありません。それは問題を処理する時にただ自制心を保って、何よりも大切なことは決してその戸を閉めないということであります。

ここに家族が交通の道を開き続けて行くために多くの方法があります。

(一) 家族会議

家族の各員が活動、スケジュール責任、予約などをよく知らされておくためにこの会議はなくてはならないものであります。会議は問題を解決するのに論理的な場所であります。けれども各人が反撃されることを知っていても自由に自分の考えを述べられる気持を持つべきであります。そしてすべての家族員がお互いに他の意見に耳を傾け、他の意見を尊重すべきであります。

(二) 父母会議

この多忙な時にお父さんとお母さんは家計のことや、車の使用、社交的な約束、訓練などの事に就て共に語り合う機会が少いようです。必要ならば特に毎週時間をさいてこのような問題を処理すべきです。

(三) 共に食事する

一日に少くとも一食は家族の者が、よく盛られた食卓を囲んで会食すべきであります。

議論の余地ある問題は後に廻すとしても、この時に、いろいろ家族的な問題に就て話合うべきであります。ですからこれは楽しい幸福なときであります。賢明な母親たちは、共に食事する家族の伝統を保ち続けるように注意して計画します。

(四) 告示板及び黒板

すべての家族が一つ持つべきであります。ここに共通な又ひんばんな伝言が記されるのであります。お母さん私は街に行きます。三時に帰ります。マリヤ、五時にオーヴンにキヤセロールを入れて下さい。お願いします。お父さん(監督)が七時にワード部で貴方に逢いたいそうです。このように日常のことではあっても大切な伝言が伝えられないときに不幸な結果を生じ得るのであります。

(五) 家族の折り

普通に子供たちが説教めいたと感じて回避したがるあるメッセージを上手に美しく折りの中に入れることによって伝えることが出来ます。誘惑にかからないように子供たちを強くして下さい。お互いに批判し合わないよう援けて下さい。ジョーンがもっと先

生を慕って彼らの間が報われるものであるようにジョーンを援けて下さい。これらのメッセージは、大切な時にその心に甦って、必要な時、必要な場所で力を与えるものであります。

(六) 自筆の覚書

これは幸福な交通の方法です。感謝又は思い出させるための特別の覚書を弁当袋の中に入れて、あるいは夜に枕にピンでとめて置きます。これによって夫婦間又は親子間に暖かい感情を保つことが出来ます。息子よ、車を使わせないで悪かったね、けれどもそれは私たちがお前をあまりにも愛しているからなのよ。若し貴方が先生を愛したら彼女も貴方を愛すでしょう。そして始めての学校が楽しいものとなりますよ。

(七) 就寝時の訪問

この訪問するには子供が大きくなりすぎたと云うことは決してありません。訪れたとに、ある子の背中を摸んでやり又他の子の疲れた腕にマッサージをしてあげなさい。それが彼らの気持をやわらげ舌をほぐらせます。又歌を歌ってゆったり何か心にあることを語り合います。これは一日の終りの最も楽しい意志のそつうであります。

文学としての聖書



第八課 聖書文学にあらわれている大きなテーマと、 聖書が人間の生活に与えている影響との説明

扶助協会レッスン………文学

1965 年 5 月 第 3 回目の集りで

目的 聖書の中にある大きなテーマ

マのいくつかと人間自身の
生活との関係を考えさせる

ナザレのマリア

前のレッスンでわたくしたちは
人類の母である最初の女性イヴの
ことを考えました。そこで今度は
イエスの母であるマリアのことを
考えましょう。

マリアは最高の喜びを経験する
と共に、最も深い悲しみを味わっ
た女性でした。マリアはユダヤの
王家の血筋でありましたが、身分
のひくいナザレ人のおとめとして
育てられ大工のヨセフと婚約をし
ました。

あるとき天使ガブリエルがマリ
ヤにあらわれて「めぐまれた女よ
おめでとう」と言って、マリアの
使命を語ったときのマリアのおど
ろきは、ほとんど想像することの
できないほどのものであった。マ
リアはガブリエルの言ったことば
の意味がわかってから、マリアは

エリザベツの家を訪ずねて、サムエル之母ハナが、その息子のサムエルをめぐまれたため主なる神をさんびして唱った歌と同じ賛歌を唱って喜びの声をあげました。

マリヤがそのいとこに当るエルザベツのところに三箇月滞在して帰った後、婚約者であるヨセフの気高い性格は「彼女のことがおおよけになることを好まず、ひそかに離縁しよう」と決心した」ことによつて明らかになります。ヨセフはこのように決心したが、主の使が夢の中にあらわれてマリヤのみごもったことは名譽に思つて喜ぶべきであり、恥しく思つたり悲しんだりすべきではない。なぜならマリヤは月満ちて「神の御子」を産むはずであるからであると言いました。

モルモン經のニーフアイ第一章十一節、ニーフアイは示現の中におとめマリヤと「神の御子」とを見ましたが、天使に「ニーフアイよ、何が見える

か」とたずねられたときに「一人のおとめがわたくしに見える、それはどんなおとめにもまさつて美しくまたうるわしいおとめである」と言いました。

イエスの生涯の中で起つたいくつかの出来事はその母のマリヤにいちじるしい影響を与えたにちがいありません。たとえて言うと、マリヤとヨセフとは、幼な児イエスを主にささげるためにエルサレムの神殿へ行つたことがあります。そのとき、死ぬ前にキリストを見るであらうという約束の実現するのを待つていた信仰深い人シメオンが、幼な児イエスを両手に抱きあげ、自分に与えられた約束が今や果されたことを認めました。これは年若い母親のマリヤにとつて誇らしい幸福の一瞬であつたにちがいありません。（ルカによる福音書二〇二十五—三十四参照）。

しかしながら、前にも述べたように、マリヤは最も深い悲しみに

味わいました。シメオンさえも、イエスとマリヤが受ける若しみを先見しました。そしてマリヤに「あなた自身もつるぎに胸を刺しつらぬかれるでしょう」と言いました（ルカによる福音書二〇三十五）。

まことに、それから後の何年かの間にマリヤはその胸を何度もつらぬかれたにちがいありませんでした。あるときまだイエスが少年であつたとき、マリヤはイエスが居なくなつてしまつたと思いましたが（一生けんめい探した末）、イエスが神殿の中で教師たちと話し合つてゐるのをみつけました。マリヤはイエスが無事でゐるのを見つけたとき、ほんとうにほつとしたにちがいありませんが、それは純粹な喜びではありませんでした。それは、そのような早い時期にさへ、二人の生活はイエスのもつ神聖な使命のために離れ離れになるだろうということを悟らされたからであります。「わたしが自

分の父の家にいるはずのことをごぞんじなかつたのですか」というイエスのことばは、マリヤに自分はいエスの母であるけれども、イエスは「神の子」であるという事實をはつきり知らせたのであります。（ルカによる福音書二〇四十二—五十参照）。

イエスが、それまでにない珍しい教えをのべ伝え、数々の奇跡を行ない始めて、人々の中にイエスをにくみ、イエスについてありもしないことを言いはじめる者があらわれたときにマリヤは苦しみました。しかしまた、群衆が場所から場所へイエスについてあるいて、イエスの教えることばを聞きその病いをいやしてもらつたときマリヤはいエスに能力のあるのを見て喜びました。

その後イエスは十字架にかけられました。十字架のすぐそばからこの悲しい出来事を目撃した使徒ヨハネは、この悲劇的の出来事を記録しています。マリヤは十字架

の近くに立っていました、その母としての心情は、イエスの堪えている苦悶を見て胸を刺しつらぬかれる思いでありました。そのおそろしい時にさえイエスが母のことが思いやって居たことを知ってマリヤはあとからせめてもの慰さめにしたにちがいありません。イエスはこの悲惨なころみの時に母のマリヤを力づける必要があるのを知って居られたらしく、自分の友であるヨハネをマリヤにお与えになりました。そしてマリヤに「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」と言い、ヨハネに「ごらんなさい、これはあなたの母です」とお言いになりました。その時以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとったのであります（ヨハネによる福音書十九〇二十六―二十七参照）。

その仕事のために何年ものあいだほとんど家を離れていたイエスは、母性愛の純粹なことで強い力のあることを認めて、これを尊

び敬まい、自分を地につなぎとめて置く最後のきづなになさいます。『たしかに、真の女性のあらわれの極致、母性の神聖なきづなをこれ以上高度に認めることは考えられない』。

「マリヤは、この先どのように為しとげられるか知らなかったけれども、神のみこころにすぐさまその身を任せて、その信仰とけんそんとをあらわしました。そしてヘブロンへ旅行をしてその勢力と熱心とをあらわし、喜びの讃歌を唱ってうれしい感謝をあらわし、イエスのことばを完全に理解することはできなかったけれども、イエスのことばを守って忠実と信頼とをあらわしました。聖典の中に描写されているかぎり、マリヤは全くわたしたちの予期している通り、最もやさしい、最も信仰深いけんそんな忍耐深い愛情のある女性であります。それでもマリヤが一人の女であることには変わりありません」。

次に聖書にあらわれているテーマのいくつかについて考えることにしましょう。

全体としての聖書のテーマ

次にあげるような質問は、世の始めから人間がたえずしていた質問であります。すなわち

(一)世界の意味は何か。(二)神は、わが父であるか。(三)自分は彼を信頼することができるか。(四)自分はほかの人々とどんな関係にあるか。(五)キリストとは誰であって、その使命は何か。という質問であります。

以上の質問に対する答えは、人間と救いに対する人間の努力との研究という、聖書の中にあるすべてを含むテーマと合併する偉大なテーマをつくるのであります。そのテーマとは「義」であります。なぜなら聖書は見つけ次第不正と情とを倒すからであります。「聖書はまことに正義と誠実と真心と真実との書物であります」。

聖書の中にあるいくつかのテーマのいくつか

ここに述べた一般的なテーマはヨブ記にあらわれている人間の苦しみとか、詩篇に描かれているような天地自然の与える靈感と慰めとか、ルツ記に示してあるような忠節と従順とか、またしん言の中に例示してある実生活の教えとか、いくつものテーマに分けることができます。

ルツの物語とエステル物語とをくらべるとその構造、背景、性格等にちがいがあるけれども、テーマをとってみると同じであります。ルツは農夫であるがエステルは女王であり、ルツの物語は田舎を舞台にした生活を物語風に述べただけの田園詩であり、エステル物語は、現代作品に見られるあらゆる劇的の動機とやま場とを具えた一つの劇であります。この二つの物語にある出来事は八百年の年月をへだてて起っていますが、各々の物語はげいしい試れんの最中

にも気高い心があるというテーマを展開しています。

「そのテーマはふつうのテーマであるが、草花についてのテーマにあきあきしていると同じようにあきあきしているテーマである」ルツは孝行、献身、勇気、自尊などを示しています。ルワの物語はよめとしゅうとめとの間にしばしば多く見られる反感という關係を、最もやさしい同情によって美化しています。その物語を読むと献身的な愛をひたすらさげることによって、おちぶれた生活に再び花が咲いたことがわかります。エステルの物語を読むと、人はもっと広い世界につれて来られます。しかし、この物語のテーマもまたルツの場合と同じであって「勇壮果敢(ゆうそうがかん)と志操堅固」という精神が同じようにみなぎっています。困難な事態に對し勇敢に立ちむかったために与えられた酬いは、ルツの場合よりもこの時の方がもっとみわく的です。

はあるが、それでも同じ種類のものであります。

エステルの物語の背景は「帝王の威風と、専制君主の権能と、はげしい欲情と、陰謀を企てる奴隸根性」と、兇悪な復しゅう」であります。「そして、この暗黒なあらしの海に、美と分別と勇気とを天性をなえた一人の若い婦人があらわれ、荒れ狂う風雨をおさめて自国の民の救い主となるのであります。……このエステルの物語は最も気高く最も上品な黙想をするための資料となるばかりでなく、また人生における予知しない偶然である日々の出来事の中に、記憶にのこらないささいな行為の中に、一羽のすずめが地に落ちるの中に、地球がその果実を生ずることの中に、たしかに神がましますという証明であります。エステルの物語の中に「神」という名前は一度も出て来ませんが、その中には神のみわががはつきり語られています。

いろいろな点から見て、ヨブ記は聖書にある最も偉大な書の一つであります。テーマを提出するに當って聖書の記事はひじょうに劇的な要素を持ち出しています。すなわち、わたくしたちは暗黒と苦痛の中で灰をかぶってすわっているヨブを見ます。ヨブは病気でうめいています。ヨブは友だちから捨てられ軽べつされています。しかしヨブは依然として自分とは絶対に誠実に、友人とは絶対に忠実であります。時には神さまもヨブの味方でないように見えるけれども、この世を去った後も汚れなく正しく生きるために勝利を得ようと信仰の戦いを戦いながら、ヨブは相かわらず理想を固く守ってかえないのであります。

かうことであつて、損害とこらしめからまぬかれることであります。そして損害とこらしめとは、その意味が反対であるにもかかわらず神々(こうこう)しいことと固く結びつき、この世の生活の暗黒とつらさから一層高い光と愛とにつながるのであります」。

この中心となつてゐるテーマはどの時代でも万人に適するテーマであります。その中には一人前の人間の靈が発達して行く意味が本當に含まれてあります。「この傑作(ヨブ記)の中で、ヨブ記の著者の心臓は世の中の人々の心臓とひとしく波うっています。……そして恐怖にすこしも目をおおわずがラスをとおして陰気にながめているが、そのすべてに直面して、世界のなぞをとく本當の解答は自分ですべてを引き受けることであるという態度をとっている人々の叫びをあげています。説明のできない深い神秘の底から一つの声が「わが贖い主の生きたもうことをわれ

知る」というのを知ることとは全人類にとってよいことです。文学書の各頁を照らしている光のうちこれほど偉大な光はありません。

日常生活に聖書のテーマをあてはめる

以上述べた聖書の偉大なテーマが、このようにはかり知れないねうちを人間の日常生活にもっているのは、それが人間の心の底にある人間的な情緒にも神のような情緒にも強くふれるからであります。ほかの人々がルツや、エステルや、ヨセフや、モーセや、ヨブや、イエス自身が直面しなければならなかったような問題に対してどのように直面しているかを見るとき、わたくしたちは自身の問題にもっとよく直面する方法を知るのであります。

聖書の中にあるどの書をとってみてもみないいろいろなテーマを提示していますが、それをわたくしたちの生活にあてはめてみるときわたくしたちの性格は強くなり、

わたくしたちの生活は豊かになるのであります。それで、文学としてだけ考えた聖書は、わたくしたちの日常生活を導く光であります。人間の生活に及ぼす聖書の影響は、いろいろな職業の人々が聖書にささげた感謝のことばから間接にわかります。

そのうち二つ三つをひろって見ると次の通りであります。

欽定(きんてい)訳英語聖書を改訂した人々は千六百十一年に次のように言いました。

「もしわれらが無知ならば聖書はわれらに教うべし。もしわれらが道をはずれるならば、聖書はわれらを家につれ戻すべし。もしもわれらが乱れているならば、聖書はわれらを改良すべし、もしも悲しみのうちにあるならば慰めを与えうべし。もしも不活潑ならば生々(いきいき)となすべし。もしも冷たければ、われらを燃え立たすべし」。

ナポレオン一世は聖書を読んで

次のように言いました。

「人の心が夢中になるばかりでなく統制されるから、聖書の指導によるときに人の心はけっして道に迷うことはない」。

英国の作家ラスキンは次のように忠告しています。

「あなたの聖書を読みなさい。あなたの理解しているすべてのことと聖書に従うことを毎日の仕事としなさい。わたくしはあざない時から聖書を読んでおぼえたから、わたくしの文学趣味のうち一番よい部分はそれのおかげである」。

レッスンの助け

(一) わたくしたちの日常生活にとってひじょうに重要なテーマを展開している聖書の物語りまたは部分を選び出さない。

(二) 聖書によってその生活に大きな影響を受けたあなたの国の偉人たち(過去も現在も含む)から「あかし」をみつけてこのレッスンにつけ加えて下さい。

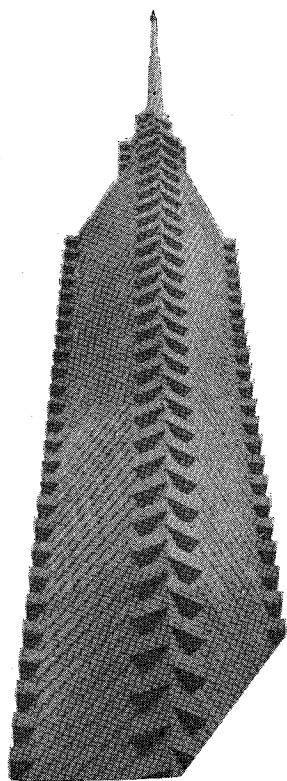
(三) これまであなたは聖書からどの

ような助けを得ていますか。

(四) あなたが暗記しているすぐれた聖句を言って(もしくは書いて)下さい。

あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。悪しき日がきたり、年が寄って、「わたしにはなんの楽しみもない」というようにならない前に、また日や光や、月や星の暗くならない前に、雨の後にまた雲が帰らないうちに、そのようにせよ。

神の律法と教会制度



社会科学

教会制度の機能

扶助協会 レッスン

1965年5月第4週

第二十一課 要約 人の心の中の平安

目的 この地上に平和をもたらす教会制度の機能の重要な役割を強調する。

世の中に人の心の嫉妬、敵意、利己心が常に神の王国として知られる理想的な社会の建設を阻害していると言う人が居ります。懷疑者及び嘲弄者がどのように言おうともイエス・キリストの教会の使命は、人の心から罪と悪を取り除いて、この地上に平和と善意の優れた社会に変えることであります（デビット・オー・マッケイ大管長チャーチ・セクション 一九六四年一月二十五日、二頁）

平和と善意は心の態度であります。態度とは与えられた状況下に

頼りになる方法で行動しようとする姿勢であります。態度は喜びと満足と望ましい結果をもたらす一連の経験を通じて習得されるものであります。態度は勉強、人間の接触及び交際から生じ成長するものであります。それは感じ又は意見以上のものであります。それは私たちが話すことよりも為すことに、もっと正確に現われます。

宗教的な態度

各個人の真の宗教的な態度は、教会の教えに関係した彼の活動に現われます。例えば或人が教会の会員であること、ジョセフ・スミスは神の予言者であること及び神はジョセフを通じて語ったことを証してから予言者によって与えられた啓示された律法を無視したらその人の証の強さは、彼の語った言葉にあるのではなくて、彼の行動の中に見出されるのであります。イエスはユダヤ人の中に同様の状

態を見出して言って居ります。

偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な予言をしている。

「この民は口ききではわたしを敬うが、その心はわたくしから遠く離れている」(マタイ伝一五・七八)

これは単に特別な啓示に適用されるだけではなく、人の神と人に対するすべての行ないを正直にし啓示された、よい生活のすべての原則に忠実に生きることによってあらゆる状態の真理を告げるものであります。

教会統治の目的

教会の統治は神の律法によって人類に進むべき方向を与え、彼らをして充分にその能力を発揮せしめるにあります。他の教課で既に指摘したように、教会は家庭を通じて正しい模範を示すことに最大な責任を与えました。両親は救い主の教えを実行しなければなりません。この影響の下に子供は神に対する信仰を守り、神の律法を受け入れ、それを同胞を愛することに適用するなどの生活態度を成長させ、それは彼の生涯を通じて続くものであります。

教会統治の二番目に大きな責任は会員たちに、正しい環境の社会を育成するように指示することにあります。教会及び教会の奉仕はこれを育成する主な要素であります。各会員の肉体的な福祉が関心を払われる大きな問題であります。飢えや失業をなくすることはその責任の一部に過ぎません。健康、リクレーション及び教育も同様に教会の会員の肉体的な福祉に大切なものであります。

三番目の主な責任は教会のすべての会員の知性に対する挑戦であります。霊的進歩と知的成長は共に進むものであります。教会のす

べての会員が正しい態度を成長させるには、上記三つの責任の適切な作用を必要とするのであります。

環境の力

四つの経典の最初孔子の大学を開くと次のようなことが論じてあります。

人は真の知識を達成すればその目的を誠実なものとし、目的が誠実なものとなれば心が正しくなり心が正しくなれば身が修まり、身が修まれば家庭が育ひ家庭が育えば国家が治まり国家が治まれば世界に平和が訪れる。即ち「致知誠意正心修身齊家治國平天下」であります。

皇帝から平民に至る迄、すべての人はその根本として身を修めねばなりません。根底がぐらついている時にその上に建てられた構造物は決して安定しません。幹が細くて弱いのに枝が生ひ茂っているという樹は決してありません。

家庭は王国の会員の訓練場であります。若しも家庭がその機能を遂行するなら平和と善意の根本的な態度が設定されるのです。家庭内にあると同様の気持、動機が教会会員の共同体の中にも実在しなければなりません。

神の命令(教義と聖約六八・二五―二六)に従って家庭がその機能を果たす時、ワード部の環境は愛と理解を生み出すに理想的な処となるであります。救い主の教えは単に私たちの心を美しい理想に目覚めさせてくれるだけではありません。すべての福音の原則が各会員の生活の機能の一部とならねばなりません。

努力はその人自身のものでなければなりません。誰も他人の為に学んでやることは出来ません。人は贈物又は遺産として、知恵や学

問や、人格の美を得ることは出来ません。ここに於て又何処に在つても人は自分自身の努力で彼自身を完成しなければなりません。そして彼は彼自身の働らきによって完成した水準以上に上ることは出来ないのであります。(ボウエン・アルパート・イー 一九四八年四月五日、大会報告 九一頁)

人が成熟するのは経験と交友からであります。人が与えられた道に、善処して行く傾向はその人に善い生活の原則が如何によく又は効果的に又ひんばんに与えられたかによります。訓練と理解なしに如何なる道徳も実施されません。誠実の標準が明確に確乎たる方法を以て系統的に与えられなければ人はなかなか誠実になれないものであります。このことは貞節、親切、正義、忠誠に於ても同様に真実であります。これらは救い主の生涯に性格化された或特徴であり各人はその心に平和と善意を成長させるべきであります。それはゆつくりした行程であります。が確実に進むものであります。

武力は無益である

数千年間に亘つて人類は破壊的な機械を進歩させることによって平和を維持しようとして来ました。尖らした石、剣、斧、弓矢のような手で使用する簡単な武器から巨大なミサイルを敵に向けて発射する強力な装置迄、戦争の最も破壊的な武器を生産する為に常に発明の才能が費されて来ました。

爆発力の進歩に伴つて、一発よく数千、万の人類、都市を破壊する夢想だになつた偉力が出現して来ました。そのような武力の成長に伴つて人間の心は恐怖に充たされて来たのであります。国民は最高級の科学者と富を用いて、より効果的で正確な破壊の手段を生産しているのです。そして列強は相互に他国民の武装の強化を嫉

視し合っているのです。武装競走の結果はすべての人々の心に国民間の疑惑、憎悪及び嫉妬心をつのらせるだけであります。

隣人を理解する

この闘争に喘ぐ国民の間に在つて人々を自然に親密にさせる技術的な進め方に一縷の望みがあるのであります。今や人は数時間で地球を一週出来るのです。山脈や海洋も防壁とはならないのであります。私たちは地球上の他のすべての民よりも、隣人に近いのであります。私たちは彼らに就て、もっと学ばねばなりません。私たちの隣人を理解することは友情関係の道を開きます。より友情的な民により大きな平和の可能性があります。末日聖徒イエス・キリスト教会は全世界の人々に正義の原則と平和的な理解を教える、大部分が若い人々である約一万二千人の宣教師を持つて居ります。人々にこの地上でお互いに幸福に暮らす、唯一の道を示すことが彼らの自己を没却した努力であります。彼らは、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であつて、これらを否定する律法はない。(ガラテヤ書五・二二—二三) ことを示しながら、人間の生活に於ける愛の価値を身を以て教えているのであります。彼ら宣教師たちは彼らの教えの真実であることを説明する為の模範としてモルモン家庭の援けを必要として居ります。すべての末日聖徒の家庭が神に対する愛と隣人に対する愛の効果をデモンストレートすることを彼ら(宣教師)は必要としているのであります。

神の律法は平和への導き

神の律法の作用である神の統治は人々の心の中に平和と善意をもたらす唯一の道であります。そこに別な道はありません。平和は、明確な良心、理性と知恵及び神に対する信仰又他人の自分に対する

關係の理解の産物であります。それは人々が協調し最善を尽くそうとした結果であります。平和はこの世の指導者たち又住んでいる人々が進んで神の計画を自覚し、より一生懸命に働らき、より多く犠牲し、彼らのすべての資源を神の計画の発展の為に用いる時に、もたらされるであります。

平和はすべての人々が自分自身と同様に、他人の福祉を考える時にもたらされます。それはすべての人々が自分の職業に従事している時に他人に奉仕しようという動機がその推進力となっていれば生ずるのであります。

平和の君

平和は人生の容易な道ではありません。それはイエスが私たちに与えた模範。人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。(ヨハネ伝一五・一三) によって指示された人生の道であります。キリストの喜びと栄光は、その才能と経験と力と人類の福祉と進歩の為に用いたことによってもたらされたのであります。彼が奇蹟を行った時、医された人に誰にも告げるなど忠告されたのであります。彼は彼に敵対する者に逢った時に武力を用いませんでした。彼は天の軍勢を呼んでその身を守ることも出来たのですが呼びませんでした。彼は愛と親切を以て力に対面したのであります。彼は彼を捕えようとしたローマの兵士の耳を切り落したペテロを叱責したのであります。そして傷ついたその兵士の耳を又元に回復してやったのであります。彼は常に彼を輕蔑し虐待した人に善くしたのであります。

イエスは疲れた者、病める者を探して彼らを励まし、医し、神と隣人を愛するようにすすめたのであります。

神の律法は完成を得る為の指示を備えて居ります。完成は創造者によって目論まれた目標であります。アダム の時代、エノクの時代そしてイエスがこの地上に在った時又ニーフアイ第四書が書かれた時、神の指示の根源近く在った者たちは、完成の域に達したのであります。彼らは正しい原則を教えられ、完全な知識を以て自由に選択する機会を与えられ正しい決定をすることが出来たのであります。真の道徳(正惡の別を知って正を選ぶ)が存在したのであります。

いつの世に於ても、欺瞞や羨望や利己心やその他人間の弱点が人々の知識、理性、信仰をゆがめ彼らの不義な程度に影響されて、彼らがその決定をした時に標準からはずれた行為がもたらされるのであります。このような状態に於ては平和と善意に根本的な神と隣人に対する愛が失われるのであります。

要約

さて今私たちは過去三ヶ年間の私たちの教課、神の律法と教会制度、の要点を振り返って見ましょう。私たちは、皆さんが人に委された神の権能、神権を通じての教会統治体(政府)の中の神の律法とその機能に就て討議するように努めて来たのであります。教会統治体の目的は創造者の目的、見よ、これが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。(モーセの著、一・三九)を成就するにあります。イエス・キリストのこの世に來られた使命は、神の目的が自覚されるような模範を設けることがありました。彼の生涯の模範、この世に於ける彼のすべての行為の動機は、第一のそして最大な誠命、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」これがいちばん大切な第

一のいましめである。第二もこれと同様である「自分を愛するよう
にあなたの隣り人を愛せよ」これらの二つのいましめに、律法全体
と予言者とが、かかっている」(マタイ伝二二・三七―四〇)の中
に示めされているのであります。

救い主はこの世を去るにあたって弟子たちに言つて居ります。

わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなた
がたに与える……。(ヨハネ伝一四・二七)彼の平安は彼が人類へ
の奉仕に於て御父の御意を完全に成就したと知ったことによつても
たらされたのであります。彼が持つていた御父に対する愛は彼がそ
の隣人に為した善行の中に示されたのであります。彼は幾度、汝ら
我を愛せば我が誠命を守れ、と言われたことでありましょうか。若
し私たちが彼の平安を知ろうとするならば彼の足跡に従わねばなり
ません。

考察の為の考え

一、イエス・キリストの福音の証の証拠は何ですか？

二、マタイ伝十五章七節八節に引用されている。その心はわたしか
ら遠く離れている。とはどんな意味ですか？

三、教会統治体はその会員の共同生活環境にどの程度の責任を持っ
ていますか？

四、王国の価値ある会員を形成するのに家庭の影響はどれ程大切で
すか？

五、人々の心に平安を成長させるのに愛が如何に大切ですか？

六、平和を進展させるに神の律法は如何なる役割を果たしています
か？

参 考

新約聖書 マタイ伝二十二章、二十四章、ヨハネ伝十四章十五章
信仰簡条 タルマッジ・ジェームス・イー 二十四章 附録二十四

五二五頁

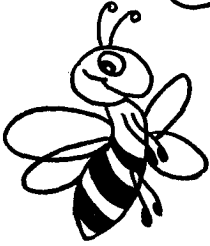
編 集 後 記

▽聖徒の道の編集室は明治神宮の杜に近い中央支部の敷地内に
ある。中央支部の敷地内は見事な日本庭園である。その一角に
梅の木がある。紅梅である。この紅梅が今を盛りと咲き誇つて
いる。長い冬の眠りからさめていままた自然界が生氣を得よう
とするにその先陣をはって春の訪れを告げている。この紅梅を
見ているとこの広大な自然界の秩序正しさが私たち人間に、何
ものかを、与えてくれている。

▽さて編集するものにとつての喜びの一つは、大管長メッセー
ジをはじめとする聖徒の道の記事を一度ならず数回、読むこと
のできることである。読み進んでいくうちに信仰を強めること
が出来る。そして日本の兄弟姉妹が聖徒の道を一度ならず二度
三度と読まれたらと、いつも編集室にいて思うのである。

▽今月は神殿行きも間近に迫ってきましたので神殿に入ったこ
とのある方々の記事を集めてみました。その中で秋元姉妹は
みなさまご存知のことかと思う。信仰の一助となれば幸いです
ります。(M)

ENGLISH PENN



APRIL

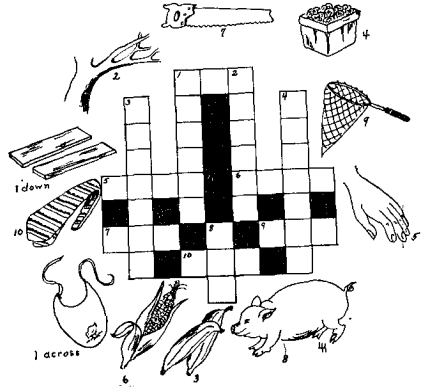


PICTURE CROSSWORD

Spring is sending feelers out—
Bright new grass, a robin scout,
Tiny buds, a yellow moon.
Spring will be here very soon!

Tongue Twister:

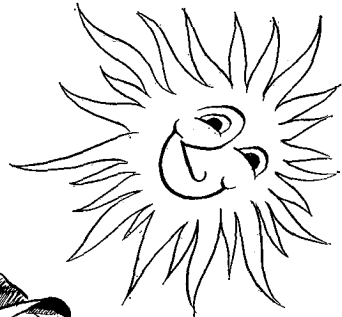
Theodore Thoroughly Thought
Through The Theorm For Three
Months.



TOO BAD!

By Jeneal R. Tribe

There was a big, fat snowman out in the yard.
He stood there smiling all day.
With his carrot nose, and his little round toes,
I knew he wanted to play.
The sun came shining bright and warm,
Mr. Snowman looked so sad—
There's a great, big puddle out in the yard.
Mr. Snowman, that's too bad!

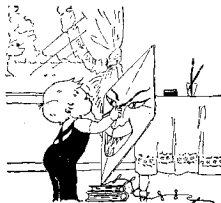


Barnabee Bumbleberry

by Naomi W. Randall
illustrated by Bonnie Malan



It is March, so Barnabee decides to make a fancy kite.



He paints a funny face on it.



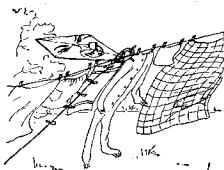
Next he goes to see if the kite will fly.



The March wind takes the kite up in the air.



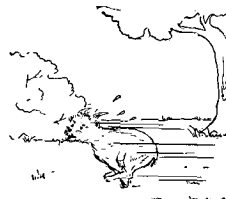
Barnabee holds tight to the string.



Oh, oh, the kite gets caught on the clothes line.



Blinker thinks this queer creature came from Sputnik.



So he gets out fast!

COME HOME, LITTLE PONY

Billy wanted a pony.

"Will you be kind to a pony?" asked father.

"Will you feed him and give him water?"

"Oh, yes," said Billy.

But one day Billy forgot to feed the pony.

The pony was hungry so he ran away.

"Will you help me find my pony, John?"

Billy said.

"No, Billy, you did not give your pony water.

You did not give your pony food.

I will not help you find him," said John.

"Will you help me find my pony, Fred?"
asked Billy.

"No, Billy, I will not help you.

You did not feed your pony," said Fred.

Billy went to the barn. Father was there.

"Will you help me find my pony, Father?"

Billy asked.

"You forgot to feed your pony, Billy.

You forgot to give him a drink.

Maybe you do not like your pony any more."

"Oh, yes, I do, Father. Will you help me find
him?"

"Yes, Billy, I will help you if you will not
forget to feed him again," said father.

They looked and looked for the pony.

They looked in the barn.

They looked in the field.

Then they looked down the road.

There was the pony.

He was looking for something to eat.

"Come home, little pony," said Billy.

"I will give you some food."

Billy put some oats in a pan.

He put some water in a pan, too.

The pony ate and ate.

"I will never forget to feed you again," said

Billy.





MORALS AND MANNERS

RICHARD L. EVANS

In the day-to-day living of life there is always the question of morals and manners. "To have respect for ourselves guides our morals," said Lawrence Sterne, "and to have a deference for others governs our manners."¹ Manners in some measure reflect morals and both depend upon some basic concepts. With lack of morals, disregard for morals, there is likely to be a letting down of manners. Part of a person's self-respect centers in what he believes he is, and what he believes others are, and whether he believes he is a mere mechanism, or an eternal man, could make much difference. An awareness of a real relationship to an Eternal Father would lead to reverence and respect and would reflect itself in morals and manners. An awareness of a real and everlasting relationship with loved ones would also reflect itself in morals and manners. How blest the home, the family where there are gentleness, respect, kindness, courtesy. "Life is not so short," said Emerson, "but that there is always time enough for courtesy."² A person who thinks that life is for a few brief years, and then forever gone and forgotten would likely less respect himself—or others—than one who knows that life is everlasting, that loved ones are everlasting, that what we are we shall take with us into eternity. Also he who really respects himself would be less likely to partake of that which would impair his physical functioning, less likely do that which would disquiet his conscience, or that for which he ought to apologize to himself or others. He who respects himself would not let degrading, enslaving habits take over his life. And he who really respects himself would have respect and deference for others also; for we all have the same relationship to him who made us in his own image. "Manners," said Edmund Burke, "are of more importance than laws. Upon them, in a great measure, the laws depend. . . . Manners are what vex or soothe, corrupt or purify, exalt or debase, barbarize or refine us, by a constant, steady, uniform, insensible operation, like that of the air we breathe in."³ "Thou shalt love the Lord thy God with all thy heart, and . . . thy neighbour as thyself,"⁴ said the Savior of mankind which means respect of God, of self, and others also.

¹Lawrence Sterne (1713-68), English clergy.

²Emerson.

³Edmund Burke, *Letters on a Regicide Peace*, i, 1797.

⁴Matt. 22:37, 39.

"The Spoken Word" from Temple Square, presented over KSL and the Columbia Broadcasting System, June 28, 1964. Copyright 1964.

図 書 案 内

教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	上質革製合本	1 1 0 0 円
教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経 (新訳)	合本	3 0 0 円
信仰箇条の研究		3 3 0 円
モルモンとは? (新版)		1 5 0 円
総合聖句の手引		1 5 0 円
日本系図探究要覧		1 0 0 円
アロン神権者用学科課程		1 5 0 円
メルケゼデク神権、教師と生徒用 「モルモン経の読み方の手引」		2 0 0 円
ナザレのイエス		1 0 0 円
正しい日本史		1 0 0 円
家督権の祝福		1 0 0 円
料理の作り方		5 0 円
求道者教育法		1 2 0 円
神の王国		2 3 0 円
基督・イエス		3 0 0 円

日曜学校用

モルモン経物語	1 5 0 円
旧約聖書物語	1 5 0 円
家族の昇栄	2 0 0 円
福音の実践	2 0 0 円
奇しきみわざ(上)(下)	2 0 0 円
我等の標準聖典	2 0 0 円
古代の使徒	1 5 0 円
シオン山の救い手たち	2 0 0 円
教義と聖約の教え	2 0 0 円

M I A 用

我ら指導者のことば	2 0 0 円
我らは信じる	2 0 0 円
我らは生きる (1965年度テキスト)	1 2 0 円
我らは奉仕する	1 5 0 円
生活の目標	1 5 0 円
今日の十誡 (1965年度テキスト)	2 5 0 円
M I A・エンサイン・ローレルの手引	1 5 0 円
演説が上手になる法	1 5 0 円
素晴らしい考え	2 0 0 円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌 (新版)	4 0 0 円
レクリエーション歌集	4 0 0 円

……注文は各支部長へ……

THE SEITO NO MICH

Volume 9, April 1965, Number 4

THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION

TEL (473) 1613. 14 Azabuhirōo-cho Minato-ku Tokyo Japan

支 部 所 在 地

北海道地方部	旭川市八条五丁目 MIA集會場 旭川公會堂 電話(二一五四五)
室蘭	室蘭市幸町八九 電話(七〇五四)
小樽	小樽市富岡町一ノ三五 電話(二一八二四)
札幌	札幌市北二条西二丁目 電話(六三二七八六六)
東中央地方部	高崎市並榎町二七五 甲府市山田町六三 松本市幸町三八四 百瀬方 電話(二一六〇〇)
新潟	新潟市中大畑町五五七 電話(二一八六六)
仙台	仙台市光禪寺通り二八 電話(二五〇八九七)
東京中央	東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇八三三〇七)
東京北	東京都中野区江原町一ノ八ノ十四 電話(九五二一五三一)
東京東	東京都江戸川区小岩町六七八〇 電話(六五七一五二三)
東京南	東京都大田区南千束町二四九 電話(七二九一六三一)
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七 電話(二一六七六四)

山形	山形市七日町三丁目十二ノ二十三 横浜市港北区篠原町二九 電話(四九一八七七二)
西中央地方部	大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八 電話(六二一八三二七)
阿倍野	福岡市浄水町四六 電話(五二一八六五三)
福岡	広島市古田町古江四〇〇ノ三 電話(三一六一三五)
金沢	金沢市上胡桃町一一 京都市左京区下鴨松原町四四 名古屋市中昭和区北山町三ノ四一 電話(七三二四二一〇)
京都	兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四 電話(五〇一〇四一)
西宮	大阪府豊中市岡町北二ノ一八 電話(二一二三六)
岡町	岡山市北方七〇 神戸市灘区篠原本町四ノ三五 電話(八六一二六〇二)
岡山	山口県柳井市今市三九一 長崎県佐世保市山手町 TAIKEI HOUSE CO., LTD.
柳井	佐世保
沖繩地方部	沖繩宜野湾市野嵩区三三八 沖繩那覇市松尾区一五九 東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇二一四〇一〇)
普天間	那覇
那覇	建築部事務所

聖 徒 の 道

1965年4月1日発行

振替口座 東京 16226 番

発行人兼 編集人 ダウエン・N・アンダーセン

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部

東京都港区麻布広尾町 14 (473) 1613

印刷所 合名会社 三五堂